

3.4 プログラムⅣ

3.4.1 プロジェクト実施状況

(1) 専門家の派遣

日本からの長期専門家及び短期専門家の派遣は、次の表の通りであり、プログラムリーダーの交替、事務引継ぎも順調に行われた。

分野	専門家氏名	派遣期間
(長期)		
プログラムリーダー	竹内 阪 蔵	58. 4. 1 ~ 61. 3. 31 (交替)
プログラムリーダー	香川 顕 郎	61. 4. 1 ~ 62. 9. 8
竹 細 工	八木沢 祐 三	58. 4. 1 ~ 62. 9. 8
木 工	古 川 勲	58. 11. 1 ~ 62. 9. 8
(短期)		
ラ タ ン 細 工	堀 江 深 一	59. 10. 11 ~ 59. 12. 21
木 工 機 械	滝 田 周 司	59. 10. 11 ~ 59. 12. 21
椅子張り加工技術	松 本 重 樹	61. 1. 15 ~ 61. 3. 14

但し、昭和60年度の短期専門家（塗装技術）の派遣が、比側の政変にあって派遣ができなかった。昭和61年度においては、刃物研磨及び機械メンテナンス関係、プロダクトデザイン（家具デザイン）関係の2名の短期専門家を派遣する予定になっている。昭和62年度は、生産及び品質管理関係の1名の短期専門家を派遣する計画になっている。

(2) 研修員の受入

研修員の受入については、毎年順調に実施されており、その実績は、別表-1の通りである。

日本における技術研修は、研修生の技術水準の向上及び自己の技術の自信となり、また帰国後の職務に巾がでて、その評価は、おおむね良好と認められている。

現在、CITCの技術職員の定着率は高く、技術移転の資務に従事しているため、プログラムⅣにとっては、極めて望ましい状況で推移している。

別表-1 プログラムⅣカウンターパート(C/P)の本邦研修受入状況

(1) 実 績

57年度(1人)

分野	研修員氏名	受入期間	帰国後配属先
高級(管理者)	Mr. E. S. Payoyo	58. 3	NACIDA. CITC 所 長

58年度(7人)

分野	研修員氏名	受入期間	帰国後配属先
竹加工	Ms. A. Macapanas	58. 11 ~ 59. 5	竹工技術課 主任
籐加工	Mr. R. Falceso	58. 11 ~ 59. 5	籐加工技術課 主任
籐加工	Mr. A. Atienza	58. 12 ~ 59. 2	籐加工技術課 課長
木	Mr. P. Eugenio	59. 3 ~ 59. 9	木工技術課 主任
木	Mr. J. Mundo	59. 3 ~ 59. 5	PHRDC. PV. 技術部長
木	Mr. T. Ruiz	59. 3 ~ 59. 5	金属加工技術課長
竹籐加工	Mr. O. Vicencio	59. 3 ~ 59. 5	竹工技術課長

59年度(4人)

分野	研修員氏名	受入期間	帰国後配属先
木	Mr. F. Codilla	59. 12 ~ 60. 6	木工技術課
木工機械	Mr. P. Deleon	59. 12 ~ 60. 6	"
竹加工	Mr. F. Francisco	59. 12 ~ 60. 6	竹工技術課
籐加工	Mr. E. Balaong	59. 12 ~ 60. 6	籐加工技術課

60年度(3人)

分野	研修員氏名	受入期間	帰国後配属先
木	Mr. F. De La Cruz		木工技術課
竹加工	Ms. L. Marasigan		竹工技術課
籐加工	Mr. E. Bicar		籐加工技術課

61年度(3人)(予定)

分野	研修員氏名	受入期間	帰国後配属先
デザイン	Mrs. ソド	61. 8 ~ 61. 10	
木	Mr. Delfin Estrenera	61. 9 ~ 62. 3	木工技術課
機械	Mr. Manuel O. Alberto	61. 10 ~ 62. 3	

昭和61年度、日本への技術研修生の受入は、以下の3分野で各1名を受入済あるいは受入予定でありPHRDC-プログラムIで日本語研修を受講した。

① デザイン関係 61年 8月

- ② 木工機械治具関係 61年 9月
- ③ 木材工業機械関係 61年10月

昭和62年度，日本技術研修生の受入は，3名を計画しており，研修科目は，次の通りであるが，今後一部修正される可能性がある。

- ① 木材加工技術
- ② 中小企業工業開発
- ③ 工業標準化等

(3) 機材供与

機材供与の状況は，別表-2の通りである。CITCにおける機材設備に対する部品，器具及び工具類の補充も必要であるが，更にCITCからRegion (RCITC)に移設した機械類に対するスペアパーツ類の供与が重要である。

Regionへ移した機械類は，概して老朽化した機械が多くそれだけにメンテナンスに力を入れなければ，地方への技術移転ができなくなる。また，場合によっては，機械を廃棄し，新しい機械（日本の中古機械でも可）に取り替の必要性が生じている。

別表-2 機材供与要請

単位：千円

年月	1984/3	1985/8	1986/8	1987	1988
プログラムⅣ	2,600	5,700	18,480	3,500	4,000

(注) 比側の機材供与要請年度に対して日本側の予算配付は1年のずれがある。

更に木工機械等に装備されている切削刃物に対して現存の研磨巾が小さ過ぎ，また，能率が悪いなど，設備の整合性に問題点が生じているので，本計画終了時点までにCITC及びRegion (RCITC)の機械設備については，再チェックが必要であると考えられる。

(4) ローカルコスト負担事業

比側のローカルコスト負担は，別表-3の通りであり，財政的な困難が続いているなかであって，相当の努力をしていることがみうけられ一応の評価があたえられる。

別表-3 比側予算措置状況

A：要求 B：承認 単位：千ペソ

		1983		1984		1985		1986		1987	
		B/A		B/A		B/A		B/A		B/A	
PN	A	3,183	54.8	9,094	32.0	2,619	91.6	3,178	78.7	3,260	~
	B	1,743		2,912		2,400		2,000		#	

木工、竹工、籐工に関し、技術協力を続けてきた結果、カウンターパートに対する技術移転についても、それ相当の成果が上り、相当の水準までに達したものと評価できるので、比国内における Region (RCITC) への技術移転は、勿論であるが、カウンターパートに一層の自信を持たせることも配慮して、その一段階として、竹加工技術分野において、アセアン域内(タイ、インドネシア、マレーシア、ブルネイ、フィリピンの5ヶ国)の技術者訓練(技術情報交換等を含む)を計画し、昭和61年度内に実施を予定されている。

しかしながら、この計画に対する必要経費について、比側が負担すべきことであるが、現在の比国経済の現状を鑑みると経費の負担が困難であり、日本側にその経費の一部負担の要請があり、これに応じることになっている。

なお、竹加工分野技術者訓練カリキュラム(案)は、別表-4の通りであるが、内容の一部が修正されることもある。

別表4 竹加工分野技術者訓練カリキュラム(案)

項 目	時間数	日数	内 容
1. 開 講 式	8 時間	1 日	PHRDCの紹介, CITCの紹介, 研修コースの紹介, 竹工部門の紹介(職員, 業務内容, 設備その他)
2. フィリピンの竹工業について(講義)	8 時間	1 日	フィリピン国内の竹工業について(製品, 材料, 機械, 手工具, 材料処理, 加工技術等)
3. 機械と手工具について(講義・実技)	8 時間	1 日	切断機, 分割機, 剥機, 削機, ホットプレス, 旋盤, ドリル機, ドラムサンダー, ベニヤリング機等 鋸, 鉋, 小刀, 巾決め, 銑引, はさみ, ドリル等
4. 材料処理技術について(講義・実技)	8 時間	1 日	材料の取扱い(伐採~保管), 油抜き, 漂白, 防虫, 防黴, 染色, 塗装等の処理技術
5. 基本的な加工技術について(講義・実技)	40 時間	5 日	材料加工(切断, 割裂, 剥, 巾決め, 銑引, 面取り) 基本編組(麻の葉, 鉄せん, 編代, 底編み) 接着技術(積層材の加工), 展開加工, 結合
6. 制作実習	64 時間	8 日	制作実習(前項で習得した技術の応用) 花籠, バスケット, プレートの制作 制作実習(前項で習得した技術の応用) 2~3のグループを編成する。椅子の制作
7. 塗装(講義・実技)	8 時間	1 日	ラッカー塗装(刷毛, スプレー塗装) 前項で制作した製品の塗装
8. デザイン(講義)	8 時間	1 日	デザインの要素について 製図の基礎について
9. 工場見学	8 時間	2 日	Panpanga, Pangasinan, La Union, Baguio (Region I, Region II)
10. 閉 講 式	8 時間	1 日	訓練評価, 終了証書の授与等
計	176 時間	22日	

(5) 比側プログラム実施体制

マルコス・アキノ政変の結果、政府省庁の人事問題が深刻化している状況が続いており、昭和61年度前半は、比側の交渉相手が決められないため、予算執行が不明で研修事業の進行が停滞したが、本年8月になってから関係省庁の人事が決定し、遅れていた研修計画が実施され始めた。

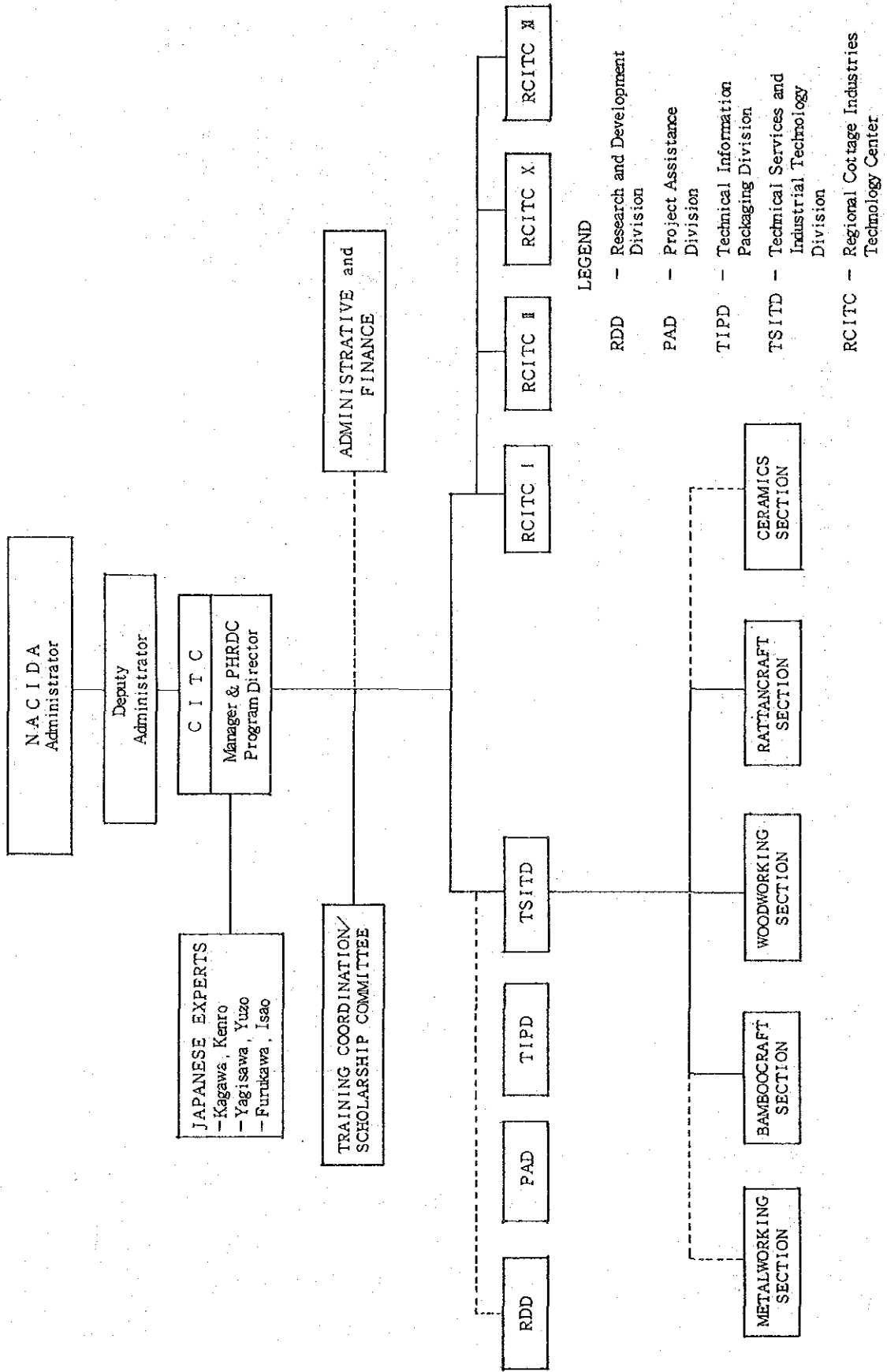
省庁幹部の異動は、次の通りであるが、カウンターパートについては、特に変更がなかった。

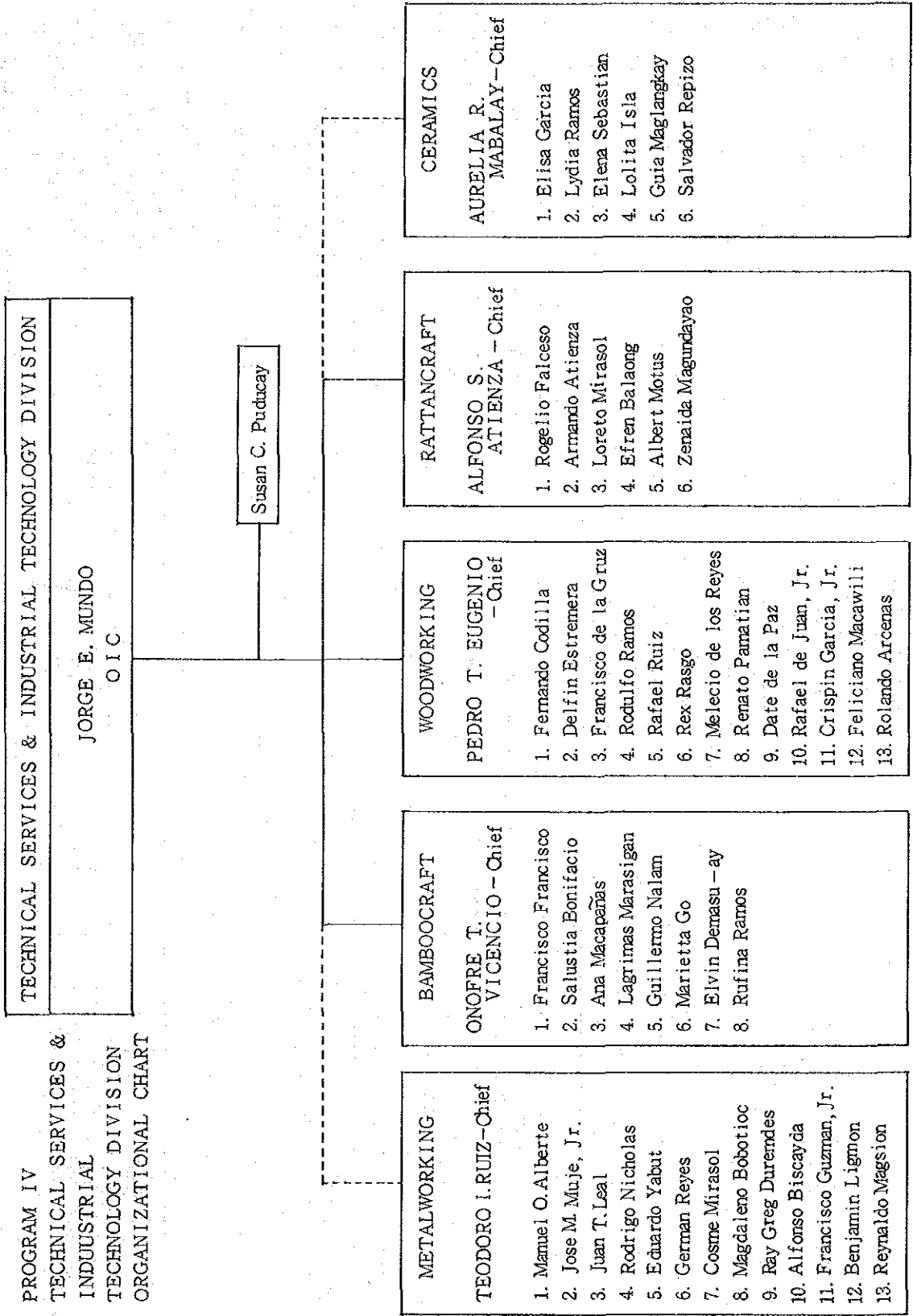
- ① 貿易工業省次官 ヘンソン氏
 1986. 8. 1～
- ① NACIDA 長官 カラグ氏 → マサフッド氏が代行
 1986. 5. 下旬～
- ② NACIDA 次官 ロコ3世氏 → ケサダ長官代行 → マサフッド長官代行
 1986. 4. 下旬～ 1986. 8. 1～
- ③ CITC 所長 A. ガルシア氏 → F. ライディチョ氏
 1986. 5～ 1986. 5～
- ④ CITC 訓練計画担当 ミラリン女史 → セシル・O氏
 1986. 5. 31～ 1986. 8. 1～
- ⑤ CITC 経理担当 タマヨ氏 → 未配置
 1986. 3. 31～
- ⑥ Region - I マネジャー R. ペラルタ氏 → コンチタ・L. 氏
 1986. 8. ～

組織としては、NACIDAと中小企業庁との統合が計画されているが、今後の状況変化によっては、また、変更されるかも知れない。

プログラムⅣの組織は、別表-5の通りで変化がなく、また、カウンターパートの配置は、別表-6の通りであり、昭和60年度に比べて、死亡者1名増員の未採用があったが、退職、異動はなかった。

PHRDC PROGRAM IV ORGANIZATIONAL CHART





(6) 建物、施設の現況

CITCの建物施設については、一応整備されているが、ただ、雨季に入ると豪雨が多く、マリキナ地区は、常に道路上に雨水が溢れる状況になって、職員の出勤が何日間に亘り妨害されることと、大水によって、木工、竹工、籐工の各研修現場に雨水が流れ込み床に置いてある材料その他に被害を与えているので、下水道の改善について検討を行っている。また、木工の屋根から雨水がもれている箇所もあり修理を必要としている。

昭和61年5月、新たに製品陳列室、図書室、訓練室（セラミック、食器、繊維）等の1棟（200 m²）が、比側の経費で建設され、一層充実されつつある。

RCITCについては、Region I, II, Xも一応整備されており、特に問題が無いと考えられるが、Region IIの敷地の火災跡等の整地を行うことも必要である。

(7) 機材の活用状況

CITCにおける機械設備の活用状況については、カウンターパート、地方職員等への技術移転のために大いに活用しており、また、機械設備の保守、整理整頓により実技訓練室は、良好の環境にあることが認められ、今後もこのよう状態が続くよう期待している。

これは、日本の訓練校、試験研究機関の機械設備の整備状況と同様であり、その努力は評価できると思料される。

また、RCITCにおいては、附近の一般の人々及び学界人への技術移転をすることを、目的としているため、CITCの機械の稼動時間よりもRCITCの機械の稼動時間が長いことは、当然である。このためにも機械の補修に必要なスペアパーツの供与が重要と思われる。

更に個々に技術移転に必要な電動工具あるいは、手工具等が多少不足している面がみうけられるので、今後の機材供与には、別枠で要請することも必要である。

(8) 教材、カリキュラム等の作成状況

プログラムⅣの教材、カリキュラム等の作成に当っては、PHRDC、プログラムⅠの協力を得て、その作成を推進してきており、既に木工のテキストブック、竹工のテキストブックまたは技術ノート等の作成、視聴覚教育用の教材スライド等の充実に努力してきている。

フィリピンは、多種民族によって国家構成がなされており、その使用言語は多種多様であるために民族間のコミュニケーションが仲々難しい。

このため、英語を共通語として取り上げているが、その英語が話せない人も多いため、ここに視聴覚用教材が非常に重要になってきている。今後国内にあつては、タガログ語のテキストブックが、作成できないか検討する必要がある。また、アセアン域内の研修計画が立案されていることから一層の充実が必要であり、プログラムⅠとの協調体制が重

要であると理解している。

3.4.2 協力活動計画及び実施状況

(1) 訓練計画の実施状況

技術研修は、次の3種類の技術系職員の技術指導が対象となっている。

技術研修課目は、木工技術、竹工技術及び籐加工技術である。

また、技術指導に当っては、日本側の専門家とともに比側のカウンターパート（課長職以上の職員及び日本へ研修員として行ってきた者）が、技術の指導に当ってその成果が上り、関係者から相当の評価があたえられている。

1) C I T C（マリキナ、軽工業技術センター）の各部門別技術系職員の技術研修

木工技術部門 13名

竹工技術部門 8名

籐加工技術部門 6名

2) RCITC（地方軽工業技術センター）の技術員の技術研修

Region II（Tuguegarao） 木工技術

Region I（Batac） 竹工技術

Region X（Cagayundeoro） 籐加工技術

Region XI（Davao） 木工技術

3) NACIDA、地方事務所の技術系職員の技術研修

NACIDA は全国が13のRegionに分れておりこれに夫々1つずつ地方事務所が併置され、その傘下に3～5ヶ所の地域事務所が設置されている。

これらの地方事務所及び地域事務所に技術指導のための技術員が配置されているが、技術員の技術レベルが低いので、これらの職員に技術指導が必要になっている。

4) 民間企業の技術員に対する技術指導

これらの企業から研修要請があれば、受入れる体制を取っている。但し、企業の場合は、短期間（3～5日程度の研修期間）であり、技術指導の科目は特定技術（塗装、椅子張り、量産加工等）に限定している。

技術研修の内容は、次の3種類のクラス課程で研修部門は、木工技術、竹工技術及び籐加工技術であるが、研修生が実地に技術指導を行う場合の講義指導方法、教材作成要領（ビデオによる視聴覚教材等）、実技指導方法等である。

a) 基礎技術課程（初級）

研修期間は3ヶ月として、無経験者について、材料処理、機械加工及び製品作成、特に機械操作、電動工具並びに手工具の取扱いの教習がある。

b) 上級技術課程

基礎技術課程の終了者等を対象として3ヶ月の研修期間である。

技術指導員として、技術指導セミナー等の指導を担当することになるので、簡易デザイン（製図方法等）、技術ノート（ハンドアウト）の作成要領、講義指導要領も習得する。なお、基礎、上級の技術課程終了者には、修了証が授与される。

c) 特定技術課程

研修期間は特に定めていないが、1～2ヶ月程度である。一例を挙げれば

- ① 木工技術では、椅子張り、塗装、刃物研磨、乾燥法、高周波による加工技術
- ② 竹工技術では、材料の処理技術（防虫、防かび方法）
- ③ 籐加工技術では、籐加工における量産化、治具加工技術等

d) この外、生産管理（プロダクトデザインを含む）、工場管理等がある。

技術研修の実施状況は、別表-7の通り実施されており、また、今後の実施計画を立案して実施する予定である。

CITCのカウンターパートに対する訓練は順調に進み、日本側の専門家からの技術移転は、相当な水準に達し、その成果作品も相当優れたものが、展示されている。

今後の実施計画終了時には、計画の研修カリキュラムを終了するものと期待している。

また、RCITC及びNACIDAの技術職員に対する研修については、基礎研修課程を終了しているが、CITCのカウンターパートによるアドバンスコース等に進めて行く必要があった。このため、比側と協議した結果、Regionにおいて、本年秋から実施する予定となり一応の成果が期待されている。

アセアン域内研修については、昭和61年度に竹加工分野において実施する予定になっているが、受入れ体制、ローカルコスト等の諸問題を処理するための検討が必要である。

更に、昭和62年度において技術協力計画の最終仕上げを行うため、CITCで木工、竹工及び籐加工の部門別に技術研修を受けた職員による作品の作成を行い、技術成果展示会を開催し、フィリピンの内外関係者にその成果を発表して評価を受けることを計画している。

別表一 7 研修実施計画

経過年次	1983	1984	1985	1986	1987
	58	59	60	61	62
	4/1	4/1	4/1	4/1	4/1
I. カウンターパート			11/17 3/7		
1. NACIDA/CITC職員の技術訓練	木工13名	木工8名	藤6名	計27名	Advanced Technical Training
2. 日本における研修	7名	4名	3名	3名	3名
3. 短期専門家による特定技術訓練	管理4, 木・竹, 藤各1	木・竹・藤, 機械	木・竹・藤	加工員・木工機械	品質管理, 中小企業 開発, 塗装
1) 木工機械	10/11 12/21	14名			
2) 藤製品の加工技術	10/11 12/21	7名			
3) 椅子張り加工技術			1/15 3/14		
4) 塗装技術			14名		
5) プロダクトデザイン					
6) 刃物研磨と機械メンテナンス					
7) 製品の品質管理					
II. R/NACIDA 職員の技術研修					
木・竹・藤の初級コース				8/3 8/31	
木・竹・藤の中級コース				32名	
V. R/CITCセンター職員の技術研修					
Region I (木)	マリンナCITCにて 11/5 1/31			10/6 12/5	
Region I (竹)	マリンナCITCにて 7/15 8/14 (Batac) 3/17 5/23			11/10 11/21	
Region X (藤)	4名			20名	
Region II (木)				9/22 11/21	
VI. ASEAN域内研修					
木工技術の初級訓練コース					タイ, インドネシア, マレーシア, ブルネイの各国から2名づつ
					フィリピン10名
					1/25 2/25
					18名

※政変その他の事情により無期延期

(2) 地方技術センター（RCITC）の設置状況等

M/Dに基づき地方技術センターは、木工技術関係の2ヶ所、竹工技術関係及び籐加工技術関係は、それぞれ1ヶ所の設置が計画されていた。

これらの地方技術センターの設置促進については、専門家が助言をするとともにその実施に協力を行った。

現在までの地方技術センターの設置状況は、下記の通り設置されている。（地図参照）

RCITC - PHRDC RELATED

REGION I (Batac City Ilocos Norte)	-	Bamboocraft	60年12月13日	設置済
REGION II (Tuguegarao Cagayan)	-	Woodworking	59年11月3日	設置済
REGION X (Cagayan de Oro City)	-	Rattancraft	61年5月17日	設置済
REGION XI (Davao City)	-	Woodworking	60年10月	現地調査

Region I（竹工）、Region II（木工）におけるRCITCは、既に地区内研修を活発に実施しており、同地区の民間人への技術移転が軌道に乗り、その成果が期待されている。

Region Xについては、61年秋から同所内において、2ヶ月間の研修訓練が開始される予定になっている。

Region XIについては、ミンダナオ島南部のタバオ市に設置予定し、実地調査を終了しているが、政情不安のため、設置が、延び延びになっており、目下比側に対し技術協力計画終了時までには設置するよう申入れをしたところ、これに対し比側は、計画終了時までには設置することを確約した。

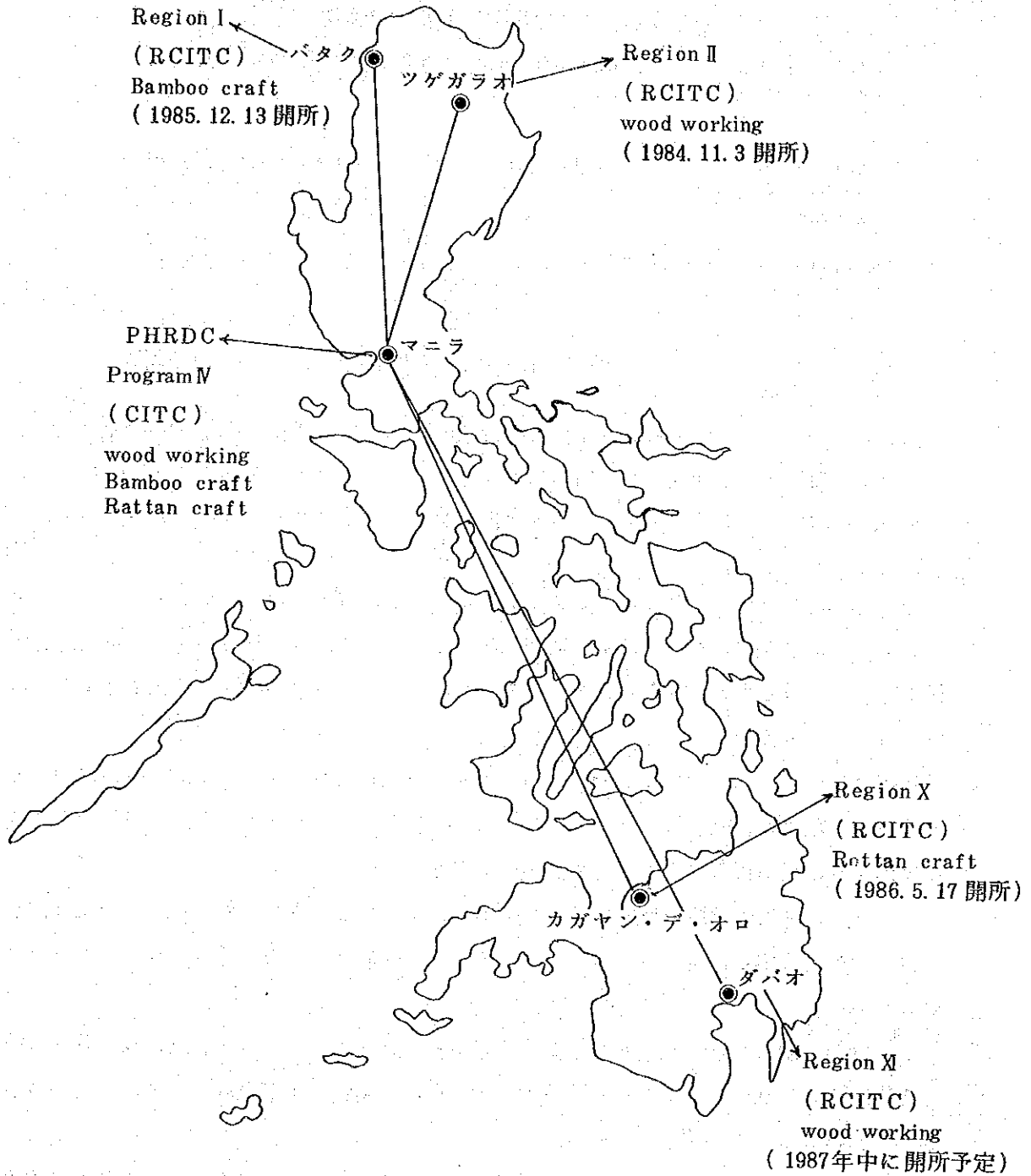
比側のNACIDAは、M/Dに基づく4ヶ所のRegion以外の9ヶ所RegionにRCITCを設置する独自の計画を持っており、RCITCを通じて地方への技術移転を図り、産業及び家内工業の振興に寄与する目的で計画の推進をしている。

このため、地方事務所の技術職員をCITCに出向させ、木工、竹工及び籐加工部門別に研修訓練を実施し、将来の地方技術センターの設置に伴う技術指導員を養成するための計画である。

この計画に関しては、既に60年6月3日から8月31日までの3ヶ月に亘り研修訓練を実施し、木工関係10名、竹工関係11名、籐加工関係11名の計32名が、基礎技術課程（初級コース）を終了している。

今後の計画としては、第2回目のアドバンスコースを計画しており、61年度内に実施

RCITC の設置場所の地図



する予定である。

なお、将来、上述の計画に関しての機材供与等の要請が、比側から新たな計画として提案されることもありえると思われる。

(3) カウンターパート訓練目標達成状況

(1)の訓練計画の実施状況で述べたようにカウンターパートの訓練目標は、特定技術の一部を除く、その大部分についてはおおむね終了しており、相当の技術レベルに到達しているものと考えられる。

技術・技能、そのものを技術移転するとのことであれば、既に一定の水準に達しており終了しているものとするが、技術・技能の世界では、日頃の技術研鑽の積重ねによって完成するもので、あとは各人の能力もあるが、個別の努力によるものと思っている。

今後の計画の重点は、特定技術の習得を中心として、①プロダクトデザイン、②刃物研磨及び機械メンテナンス、③製品の品質管理等を重点に技術の高度化を図り、カウンターパートの全員の技術レベルの向上を期待しているところである。

(4) 協力活動計画実施上の問題点及び見通し

1) 本協力活動計画の開始以来、PHRDC、NACIDA等の努力にかかわらず、その予算措置は、国家財政の不足のため、交付額が常に減額、不足している状況が続き当初計画の内容変更、延期等がよぎなくされている。

このため、プログラムⅣでは、実施計画の一部を翌年度へ繰り下げまたは研修計画に支障のない範囲での研修期間の短縮したり、日本専門家による特定技術の重点研修を実施し、所定の成果を上げている。

2) マルコス・アキノ政変による影響が大きく、61年度の実施計画の進捗状況が遅れたが、8月1日付けで新任された貿易産業省ヘンソン次官とNACIDAの長官代行マサフッド氏が精力的に活動しているので、遅れていた実施計画が進行しつつある。

今後の計画の推進については、9月5日、日本側専門家と比側のNACIDA長官代行マサフッド氏、CITC事務事務局との間で、訓練実施計画の推進に関する会議を開催し、今後の実施計画の実行を検討した結果、別表8の通りに計画を実行するため、相互が合意書にサインをし、実行することになった。

更に今回の合同会議を踏えて毎月の月例会議にする了解も取り付けてある。

3) プログラムⅣの技術協力実施計画は、現在の進捗状態で順調に推移すれば、M/D期間内で終了することができると考えている。

しかしながら、今後の問題点としては、

- ① 技術移転の補足または技術の高度化推進の必要性があること。
- ② 機材供与の納期が、期間終了後の可能性があること。

③ 政変のため、短期専門家の派遣ができなかったこともあり、また、RCITCの職員の日本への研修等を含め、日本への研修部員の派遣の必要性があること。

④ 新たな事態が生じた場合の対応を考える必要があること。

以上の主要事項を挙げたが、この外にも各項目ごとの問題点として色々な事があると考えられるので、これらに対しての計画終了後のフォローアップの検討が必要であると思われる。

PHRDC PROGRAM IV		REVISED WORK PROGRAM		1986		SEPT		OCT		NOV		DEC	
IN-HOUSE TRAINING													
1. Basic Rattan Technology Course													
2. Basic Trainers Training on Curriculum Design & Development													
3. RCTPC Advanced Wood Machine Operators Course & Tech. Course													
4. Bamboo Advanced Course													
5. Specialized Course on Millwrighting & Maintenance													
6. Specialized Training on Low-Cost Automation													
MULTI-MEDIA													
1. Development of Materials for ASEAN-PHDC Training on Bamboo Craft													
NOTED BY:													
Benno Kagawa													
KENPO ZAGAWA													
Team Leader													
Expert Bamboo													
Expert Wood													
ISAO FURUKAWA													
Officer-in-Charge, PHDC/DA													
ZAFRULLAH C. MANSURUD													
Officer-in-Charge, PHDC/DA													
JOSE E. MEDO													
VIC, ISMID													

PIRDC PROGRAM IV
Revised Work Program
1986

ACTIVITIES	TARGET PARTICIPANTS	VENUE	DESTINATION/ SCHEDULE	BUDGET ESTIMATES
IN-HOUSE TRAINING				
1. Basic Rattan Technology Course	10 RCITC X Technologists	RCITC X, Cagayan de Oro	2 months (Sept. 22-Nov. 21/86)	₱ 47,960.00
2. Basic Trainers Training on Curriculum Design and Development	20 CIITC & RCITC trainers	CIITC, Marikina	3 weeks (Sept. 29-Oct. 17/86)	₱ 63,272.00
3. RCITC Advanced Wood Machine Operators Course and Wood Technical Course	5 RCITC II technicians + trainers (Phase II)	RCITC II Tuguegarao	2 months (Oct. 5-Dec. 5/86) tentative	₱ 42,265.00
4. Bamboo Advanced Course	4 RCITC I technicians: 6 private sector	RCITC I Batac, I. Norte	2 weeks (Nov. 10-21/86)	₱ 15,000.00
5. Specialized Course on Millwrighting and Maintenance (with Japanese Short Term Expert)	10 CIITC & RCITC technicians	CIITC, Marikina	3 weeks at CIITC (Nov. 17-Dec. 5/86) 1 week at RCITC II Dec. 8-12/86	₱ 52,063.00
6. Specialized Training on Low Cost Automation	8 CIITC Trainers	UP-ISSI	depends on UP-ISSI schedule in 1986	₱ 15,000.00
MULTI-MEDIA				
1. Development of materials for ASEAN-PIRDC Training on Bamboocraft	8 ASEAN & 10 Philippine participants	CIITC & PIRDC Program I	Sept. - Nov.	c/o JICA

NOTED BY: *Kenzo Kagawa*
ALBERTO RASANO
Team Leader

Yusei Inaba
YUSEI INABA
Expert Bamboo

A. S. ...
ZAFRULLAH G. MASAUD
Officer-In-Charge, NACIDA

JOSE E. ...
JOSE E. ...
OIC, ISITD

₱ 235,560.00

PIRDC PROGRAM IV
REVISED WORK PROGRAM

1987

ACTIVITY	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEPT	OCT	NOV	DEC
I. HOUSE TRAINING												
1. Specialized Course on Product Design		5										
2. ASEAN-PIRDC Technician Training on Parboiled Rice		25										
3. Regional Advanced Training on Rice Milling (Rabat, Morocco)			15									
4. Basic Milling Machine Operators Course (RCIC, M)			5									
5. Regional Basic Training on Rice Milling (Rabat, Morocco)				5								
6. Specialized Course on Product Management & Quality Control						5						
7. Specialized Course on Rice Milling (RCIC, M)							5					
PRIVATE SECTOR TRAINING												
1. Training Course - Research (Productivity Activities)												
2. Short Term Craft Skills Training on Rice Milling (Rabat, Morocco)												

9/8/88

9/8

[Handwritten signature]

MAJOR ACTIVITIES	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
3. Specialized Training Course on Food, Bamboo, Kattien (on request)												
II. ESTABLISHMENT OF FIRDC-ASSISTED RCITC:												
1. RCITC VI (Foodworking)						30						
2. Monitor and provide technical assistance RCITC I/II/X												
3. Fabrication of additional machine, tools, spacers												
IV. MULTI-MEDIA:												
1. Development of Manual on Sautanchart							90					
2. Development & Publication of Manual on Publishing												
3. Preparation, development & photocopying of Print Materials										5	30	
4. Development of Video										5	30	
FIRDC PROGRAM IV-NAGEDA:												
EMILITION ON FOOD, BAMBOO & RATTAN PRODUCTS												
NOTED BY: <i>Kemas Karyawan</i> (Signature) Team Leader 15/05/2010												
ZARULHATI HASANES (Signature) Expert: Food 15/05/2010												
OFFICER-IN-CHARGE: ANITA (Signature) 15/05/2010												
19/8/2010												

PHRDC PROGRAM IV
Revised Work Program
1987

ACTIVITIES	TARGETS	VENUE	DESTINATION/ SCHEDULE	BUDGET ESTIMATES
I. IN-HOUSE TRAINING				
1. Specialized Course on Product Design (with Japanese Short Term Expert)	20 CIITC & RCITC designers	CIITC, Marikina	1 month (Jan. 15 - Feb. 13)	₱ 92,840.00
2. ASEAN-PHRDC Technician Training on Embocraft	8 ASEAN participants and 10 Philippine participants	CIITC, Marikina	1 month (Jan. 26 - Feb. 26)	₱ 55,000 * ₱ 800,000 (JICA counter-part contribution)
3. Regional Advanced Technology Training on Wood, Bamboo & Rattan (First Batch)	32 Regional Participants	CIITC, Marikina	3 months (Jan. 15 - April 15)	₱ 609,660.00
4. Basic Woodworking Machine Operators Course	5 RCITC XI technologists (Phase I)	CIITC, Marikina	3 months (Jan. 15 - April 15)	₱ 226,724.00
5. Regional Basic Training on Wood, Bamboo & Rattan - 2nd Batch	36 CIITC & RCITC Technicians	CIITC, Marikina	3 months (May 18 - Aug. 16)	₱ 762,900.00
6. Specialized Course on Production Management and Quality Control/Assurance	15 CIITC/RCITC Trainers	CIITC, Marikina	1 month (June 15 - July 15)	₱ 114,257.00
7. RCITC Advanced Wood Machine Operators Course and Wood Technical Course	5 RCITC XI technicians + trainers (Phase II)	RCITC XI Davao City	2 months (July 15 - Sept. 15)	₱ 44,748.00

Sub Total - ₱ 1,906,129.00

Handwritten initials and signatures:
KKE, JY, S

II. PRIVATE SECTOR TRAINING

- | | | | | |
|---|---|------------------|---|---------------|
| 1. Training-cum-research
(prototyping activities) | : Members of the Chamber
of Furniture Industry
of the Philippines
(CTIP) | : CITC, Marikina | : Feb. - Dec.
per arrangement | : P 10,000.00 |
| 2. Short Term Craft Skills
Training on Woodworking,
Bamboocraft and Rattan-
craft | : Out-of-school youth,
Entrepreneurs,
others | : CITC, Marikina | : April - December
Min. of 5 days
Max. of 20 days | : P 50,000.00 |
| <ul style="list-style-type: none"> - Basic weaving tech-
niques (Rattan) - Non-Bamboo Baskets
and Novelty Items - Basketry, Wicker and
Split Rattan - Woven Bamboo Basketry - Introductory Course on
Rattan - Rattan Joints and
Binding - Basic Stationary Wood-
working Equipment - Rattan Raw Materials
Preparation - Improved Method of
Processing Rattan
Derivatives - Finishing - Furniture Structure and
Assembly Method | | | | |
| 3. Specialized Trainings
Course on Woodworking,
Bamboocraft and Rattancraft
(In-plant and community,
based on request) | : Entrepreneurs, would
be entrepreneurs | : In-plant | : per arrangement | : P 24,000.00 |

KK *TS* *TH* *JP*

Sub Total - P 84,000.00

KS

III. ESTABLISHMENT OF PHRDC-ASSISTED REGIONAL COTTAGE INDUSTRY TECHNOLOGY CENTER (RCITC)

1. RCITC XI (Woodworking)	: Out-of-school youth, teachers, entrepreneurs, technicians	: Buhisan, Tibungco Davao City	: April - June	: P800,000.00
2. Monitor and provide technical assistance to the operating RCITCS	: RCITC I RCITC II RCITC X	: Batac, I. Norte, Tuguegarao, Cagayan Cagayan de Oro	: Jan. - Dec. Jan. - Dec. Jan. - Dec.	
3. Fabrication of additional Machine, tools & gadgets	: RCITCs I/II/X/XI RCITCs V/VIII	: CITC, Marikina	: Jan. - June	: P350,000.00

Sub Total - 71,150,000.00

IV. MULTI-MEDIA

1. Development of Manual on Rattanraft	: Trainees from public and private sectors	: CITC and PHRDC Program I	: Feb. - June	: P 10,000.00
2. Development and Publication of Manual on Finishing	: - do -	: - do -	: Feb. - June	: P 10,000.00
3. Preparation, development and mimeographing of print materials on Wood, Bamboo and Rattan	: - do -	: - do -	: Jan./June	: P 20,000.00
4. Development of Video Materials on Wood, Bamboo and Rattan	: - do -	: - do -	: Jan. - June	: P 50,000.00

Sub Total - P 90,000.00

V. PHRDC PROGRAM IV-MACEDA : public/private : Makati/Manila : July/August : P 30,000.00
EXHIBITION OF WOOD, BAMBOO : 1 - 2 weeks
AND RATTAN PRODUCTS

SUMMARY I -	P 1,906,129.00
II -	84,000.00
III -	1,150,000.00
IV -	90,000.00
V -	30,000.00
GRAND TOTAL -	<u>P 3,260,129.00</u>

NOTED BY:

Kenzo Kagawa
 KENZU KAGAWA
 Team Leader

Yoshihiro Furukawa
 YOSHIO FURUKAWA
 Expert Bamboo

Isao Furukawa
 ISAO FURUKAWA
 Expert Wood

Zafullah G. Masaud
 ZAFULLAH G. MASAUD
 Officer-In-Charge, MACIDA

Jose E. Mundo
 JOSE E. MUNDO
 OIC, TSIED

4. 評 価 調 査
5. 域内研修の実施について
6. 今後の作業スケジュールについて

4. 評価調査

来年度予定される評価調査の実施につき、日本人専門家チーム、PHRDC 事務局長代行及び各プログラム主要カウンターパートと意見交換を行い、実施方法について打合せを行った結果、下記の方針により実施する方向が打ち出された。具体的なとり進め方、実作業の段階においては、日・比双方連絡を密に保ちとりまとめ作業を進捗させる必要がある。

4.1 評価実施体制

評価の実施は、日比双方の共同作業であるとする認識のもとに、PHRDC プロジェクトの中に評価作業グループ（Evaluation Working Group）—仮称—を設置する事が提案検討され、その実現に向け具体的な検討に入る事が確認された。

合同協議（9月15日）の際、暫定的に決定された作業グループメンバーは次のとおり。

比 側：カタホイ事務局長代行、バラッドP-II マネジャーグループP-III マネジャー、マサフッドP-IV マネジャー、コーラ女史

日本側：松山チーフアドバイザー、藤田調整員、荒川P-II プログラムリーダー、沢田P-III プログラムリーダー、香川P-IV プログラムリーダー

評価実施にかかわる日本側の体制（投入）としては、作業グループのとりまとめ作業の進捗を見極めつつ、評価調査団を構成し、作業グループがとりまとめた資料に基づき国内事前検討作業を行った後日・比双方による現地評価作業を行う体制とする。共同評価作業を効率良く、かつ的確な評価を行うためには、国内での十分な事前検討と諸準備が不可欠である事から、現地派遣前1ヶ月半前までには構成、メンバーの人選決定し、具体的諸作業に入れる態勢を作る事が肝要である。

又、日本側の体制として作業グループによる現地とりまとめ作業の進捗に応じて、日本側とスリ合を必要とする場合には、1～2名の適任者を短期間派遣し、現地打合せが行い得る体制が望まれる（運営指導）。

4.2 評価の視点と評価項目

評価の視点と評価基準については、口頭により、日本人専門家チーム及び比側主要カウンターパートに対し、わが方の考え方を説明した上で、必要な事項につき意見交換を行った。その結果、今後さらに作業グループによる詳細検討を加え、必要な修正を行うも、下記の考え方により作業を進めることとした。

<評価の視点>

- ① PHRDC プロジェクトとしての事業に対する評価とプロジェクト技術協力事業に対する

評価の2つの視点から大別し評価を実施する。

プロジェクト事業
評価

+

総合評価

プロ技協事業
評価

- ② プロジェクト事業評価の目的は、当初計画或は修正計画に対する事業達成度を中心に評価を行い、立案されている今後の事業計画につき必要な修正を加え、事業実施の妥当性の検討に資することを目的とする。
- ③ プロジェクト技術協力事業評価の目的は、当初の技術移転計画に対する達成度を自立能力の視点を中心に評価を行い、今後必要とされる協力の枠組、実施計画等の立案に資するとともに協力事業の妥当性の検討に資することを目的とする。
- ④ 事前調査等、プロジェクト調査形成段階における内容レベルを見直せば、時間的制約があったため、基礎的調査に欠ける部分も散見されることから、セクター・アセスメントの視点からも基礎資料・データの収集、調査、分析を評価作業の1つとして位置づける必要がある。

<評価項目>

プロジェクト事業評価とプロジェクト技術協力事業評価の項目については、双方共通した項目が大半を占める事から、とり合えずの案として3つに区分して下記に述べる。

① 共通項目

- (i) 当初計画と実績の比較……………各プログラム別の事業、比側の実施体制及び投入、日本側の投入、その他
- (ii) 事業の管理運営体制……………比側のプロジェクト実施体制、全体及びプログラム別の管理運営体制、日本側の実施及び支援体制
- (iii) 事業達成度……………評価基準を別途に検討設定し次の達成度につき、可能な限り定量的に把握する。
 - (a) 投入計画の達成度
 - (b) 事業計画の達成度
 - (c) 設定目標の達成度
- (iv) 今後の計画に対する指針及び提言

② プロジェクト事業項目

上記の共通事項以外に、プロジェクト事業実施評価に関する項目を挙げれば、次のとおり。

- (i) 関連分野の調査・分析…………… R/D 設定目標の評価及び今後の事業計画検討に必要な事項を整理した上で、必要な情報の収集、調査により基礎的データを整備し、計画段階の評価を行うとともに、今後の計画策定に資する。
- (ii) 延長協力、フォローアップ協力に関する事項……………取り残し、未達成の分野、或は、修正追加を要するとされる事項（分野）につき、特に詳細な分析、評価を加え、追加修正計画の妥当性まで検討を行う事とする。

③ プロジェクト技術協力事業項目

同様の趣旨により、プロジェクト技術協力事業に関する評価項目を技術移転の観点から、次の項目につき、評価を行う。

<全 体>

- (i) 計画立案能力
- (ii) 事業管理運営能力
- (iii) 事業実施能力
 - a. 計画，企画
 - b. カリキュラム開発
 - c. 教科書，指導マニュアル等ソフト開発
 - d. 講義，実習，実験等の実施
 - e. 訓練，研究調査等事業の評価

<カウンターパート>

又、技術系のカウンターパートに対する技術移転の評価項目を記せば、次のとおり。

- (i) 専門的な知識技能
- (ii) 知識や技能の習得過程の理解
- (iii) 訓練，研究目標の明確な設定能力
- (iv) ニーズに即したカリキュラムの編成，研修課題の作成能力
- (v) 訓練計画，研究計画の作成能力
- (vi) 指導案や作業指導票，研究組立や研究アプローチ法の作成実施能力
- (vii) 実技の教え方，実演の仕方，研究指導，調査指導能力
- (viii) 機材使用活用に関する熟知度
- (ix) 指導者，研究者としての心構え及び人格
 - 根生・活力，創造性，積極性，開拓精神，協調性，責任感，個性（特徴），後継者育生精神，その他

CURRICULUM DESIGN

SUBJECTS	DAYS	HOURS	METHODOLOGY	DESCRIPTION
1. Opening Ceremony	1	7	Program	Briefing of the Participants Overview of the PHRDC Program General Orientation
2. Overview of the Bamboocraft Industry	1	7	Lecture	Association of Bamboo to man, their daily life during the primitive days and up to the present era. Status of Bamboo craft industry in the Philippines
		1		Country Report presentation 4-5 p. m.
3. Hand tools, machines, gadgets and other labor saving devices	1	7	Lecture and demonstration with audio-visual aids	Various hand tools used in bamboocraft manufacturing Importance of Jigs, gadgets and other labor saving devices.
		1		Country Report presentation 4-5 p. m.
4. Treatment of Materials Preservation	1	7	Lecture and demonstration	Importance of materials treatment in relation to bamboocraft manufacturing. Various methods of treatment and preservation Seasoning and proper storage practices.
		1		Country Report presentation 4-5 p. m.
5. Materials processing for Various items	5	35	Lecture/ demonstration	Proper processing method for basketry Proper processing method for lamination Proper processing method for flattening Bamboo furniture joints
		1		Country Report presentation 4-5 p. m.
6. Basket Formation and rim binding	5	35	Practicum	Actual weaving of bamboo trays, plate and flower baskets together with rim binding
7. Bamboo Furniture Construction	3	21	Practicum	Actual construction of arm chairs based on CTTC technology.
8. Finishing	1	7	Lecture/ demonstration	Surface preparation Application of finishing material by brush. Application of finishing material by spray. Different kinds of finishing materials, coloring and/or staining. Bleaching and dyeing.
9. Designs and Furniture Standards	1	7	Lecture	To be lectured by a resource person from the private sector or from the Design Center Philippines.
10. Field Trip	3	21	Guided Tour	Factory visit to various plants in Luzon.
11. Closing Ceremony	1	7	Program	Evaluation Graduation

23 days 161 hours

5. 域内研修の実施について (Regional Training Program)

昭和61年度において、タイ人造りプロジェクト (PHC) での域内研修に引続いて、本プロジェクト PHRDC においても ASEAN 諸国に対し人造り事業を展開する事とし諸準備を進めて来た。昨年の巡回指導調査団派遣時点 (昭和60年6月) では、4プログラム全般に亘り、その実施の可能性が検討され、プログラムI及びプログラムIVにおいて域内研修の実施能力がありと判断された。その後、日本人専門家チーム及びカウンターパートにより、より詳細な検討研究が行われた結果、昭和61年度プログラムIVにおいて“ A Training Course on Bamboo-craft Technology ” が ASEAN 諸国に対する域内研修計画として策定され、今時、その実施について比側から提案がなされた。

PHRDC 事務局、プログラムI及びプログラムIVが中心となり策定した諸計画につき、① ASEAN 各国における当該分野のニーズ ② PHRDC の実施能力 ③ 訓練内容及びレベル ④ 訓練規模 (期間、員数) ⑤ 募集方法 ⑥ 研修員受入体制 等の観点から検討した結果、提案された計画は、募集体制に若干の不安はあるものゝ概ね妥当であり、又、比側の訓練実施能力が、かなり高いと判断されたことから、計画の実施細目につき協議を重ねその結果をミニッツとして別添のとおりとりまとめた。

1. 計画の概要

(1) 訓練コース名 : Training Course on Bamboocraft Technology

— 竹加工技術訓練コース —

(2) 実施機関 : PHRDC - NACIDA

① PHRDC 事務局 : 域内研修窓口 (代表)

② プログラムIV : 訓練実施機関 (NACIDA - CITC)

③ プログラムI : ソフト開発機関

(3) 訓練期間 : 昭和62年 (1987年) 1月26日から2月26日 (32日間)

(4) 対象国及び員 : 総計18名

数 <内訳> ・タイ、インドネシア、マレーシア、ブルネイの4ヶ国から各2名

・フィリピン国内関係機関から10名

(5) 訓練対象者 : ① 政府関係機関から推せんされた中堅技術者

及び資格 ② 専門学校 (Two-year College) 以上或は同等学歴者

③ 経験3年以上かつ英語能力を有する者

④ 年令 25 ~ 40才まで

(6) 予 算 出 所：①国際協力事業団事業費予算（技術者養成対策費）

②フィリピン工業者NACIDA 事業費予算

(7) 事 業 費：864,415 ペソ （7,414 千円）

2. 訓練カリキュラム

本計画が具体化されつつあった時点から、比側は、日本人専門家の指導助言の下にカリキュラム開発に着手し、現時点で比国工業省の本省及びNACIDA 等関係機関が所有するASEAN 各国の当該分野の情報を加味した訓練カリキュラム作成作業を終えている。今後、さらに各国に適合したカリキュラムを開発すべく諸作業を進めて行くこととしているが、概ね下記カリキュラムにより訓練が実施されることとなる。この開発されたカリキュラムの基本的な考え方は本事業の目的に従い

① 普及員、技術訓練指導者、企業技術監督者等の中堅技術者の技術レベルアップに貢献出来るカリキュラムであること。

② NACIDA - CITC の 10 数年に亘る事業実績、訓練実績に基づき、ASEAN 各国の竹加工分野に被益する適正技術を相互に移転するカリキュラムであること。

③ 又、比国の中堅技術者の技術レベルの向上と合わせ、各国技術者間の共通問題の把握、共通認識等リネージュを強化出来るカリキュラムであること。

をその基調としている。上記3点の基調から観点から、カリキュラムの内容、時間配分、組立等を分析すれば、基礎技術については、確認程度にとどめ、実践的な技術研修に重点を置き、かつ詳部にわたる技術まで研修させる内容、時間配分となっている。又、技術研修を実施する一方、前半に、各国事情紹介をCountry Report によるセミナー形式をカリキュラムにとり入れ、各国の実態把握、問題点の被歴、技術開発、製品及びマーケティング開発動向等の意見交換がなされる。カリキュラムの組立は訓練効果をより一層高め得ると高く評価される。

3. 訓練教材等の開発

域内研修に使用する教材は、既設訓練コースに開発した教材を若干使用するものゝ、殆んど新たに域内研修用として開発する計画としている。開発する主要な教材は、下記に掲げるとおりであるが、視聴覚教材については、プログラムIのマルチメディア部が担当し、主体的に開発に当る。教材を開発する能力については、プログラムIのマルチメディアのカウンターパート及びプログラムIVのCTICのカウンターパート双方とも、その能力を十分に有し、作成実施上の問題は無い。

<開発予定ソフト>

	(種類)
① NACIDA 紹介	V T R
② 竹の種類	V T R
③ 竹加工一組加工技術とそのプロセス	V T R
④ デザインと仕上げ	記録(資料)
⑤ 訓練記録	V T R
⑥ 講義, 実習資料 (15項目)	Hand-out
⑦ 竹加工 マニュアル	本(印刷)

4. 募集方法

既に、募集要綱(General Information)及び応募様式(Application Form)のドラフト作成をPHRDC事務局が中心となり完了し、印刷を待つばかりとなっている。この募集要綱及び応募様式を使い、どのチャンネルを通し、話しを進め確実に研修員を募集出来る体制をとるのか、実施主体及び実施責任は、比側にあるものの、これからルートを確立しなければならない初めてのケースであり、今後の当該分野の協力を他ASEANプロジェクト C I A S T C E V E S T 或は、PDPにて実施する場合の原型となることから、わが方も第三国研修との絡み或は横並びの問題もあり比側に対し適切な指導、助言が不可欠であろう。

これまでの協議話し合いを通し、より現実的な募集ルート(流れ)をとり合えずの案として作成した。この案を、今後、比側上部機関関係者と早急に協議を行い、又、フィリピンJICA事務所の指導助言をおおぎながら確実な募集ルートの構築を画する事としている。

5. 事業費

本域内研修事業の実施に必要な経費は、7,414千円(864,415ペソ)と計上されている。この事業費は、職員等の人件費を含まない直接経費、即ち、研修員旅費、日当宿泊費、国内研修旅費、外部講師経費、教材作成費、資機材等購入費、会議費等から成っており、又、日本側と比側双方からの事業費負担から構成され、その負担率は、それぞれ94.4%:5.6%で計画されている。本一覧表は、現時点で積算された比側の計画案であり、今後専門家チーム、フィリピンJICA事務所での内容検討を経た上で、最終事業費が確定される手順となる。

(単位：Pペソ)

	日本側負担	比側負担	計	備 考
域内研修員経費				
(1)航空賃	97,320	0	97,320	8名分
(2)滞在費	256,000	0	256,000	"
(3)支渡料	10,080	0	10,080	"
比国研修員経費				
(1)旅 費	0	15,000	15,000	10名分
(2)滞在費	320,000	0	320,000	"
研修旅行経費				
(1)指導同行者旅費	4,042	6,063	10,105	日本人専門家 比側講師
(2)研修員旅費	35,910	0	35,910	
外部講師経費	4,200	10,000	14,200	
現地傭人費	4,000	0	4,000	
現地交通費	23,500	0	23,500	
資機材等経費				
(1)資 機 材	46,300	0	46,300	
(2)機械使用料	0	2,100	2,100	
教材作成費				
(1)テキスト作成費	14,400	0	14,400	
(2)視聴覚教材作成費	30,000	0	30,000	
会 議 費	0	5,000	5,000	開閉講義
光 熱 費	0	10,500	10,500	実習用電気料
合 計	P 815,752	48,663	864,415	
	¥ 6,996,157	417,350	7,413,507	
比 率(%)	94.4	5.6	100	
		(交換率 ¥ = 0.1166 P		61.9.11)

MINUTES OF DISCUSSIONS

ON

THE ASEAN REGIONAL TRAINING PROGRAMME

BY

THE PHILIPPINE HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT CENTER

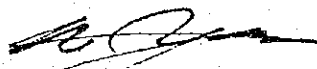
The Government of Japan has sent, through Japan International Cooperation Agency (JICA), a Consultation Survey Team from 08 to 17 September 1986 for the purpose of understanding the proposed ASEAN Regional Training Programme mentioned in Item VIII of the Record of Discussions signed on 09 September 1982 by the Philippine Human Resources Development Center (PHRDC) in the Republic of the Philippines.

The team held meetings with the Philippine Panel composed of representatives from the Philippine Human Resources Development Center (PHRDC) and National Cottage Industry Development Authority (NACIDA) together with Japanese experts assigned to the Project.


For the realization of the proposed ASEAN Regional Training Programme, both parties have agreed to recommend to their respective Governments to examine the result of the discussion attached herewith.

16 September 1986

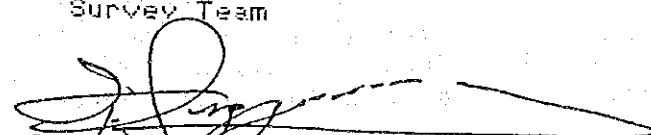
Manila, Philippines



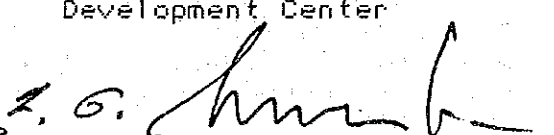
Mr. Hidetoshi Yaei
Leader
Japanese Consultation
Survey Team



Mr. General H. Catajoy, Jr.
Officer-in-Charge
Philippine Human Resources
Development Center



Mr. Teizo Sugiyama
Chief Advisor
Philippine Human Resources
Development Center



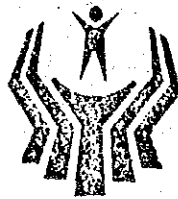
Mr. Zafrullah Masahud
Officer-in-Charge
National Cottage Industry
Development Authority

ATTACHMENT

1. The official title of the proposal is ASEAN Regional Training Programme on Bamboocraft.
2. The objectives of the course is to provide ASEAN participants engaged in bamboocraft work with the necessary knowledge and techniques ranging from the study and selection of raw materials to the improved application of technology for bamboo products. The course will also become a venue for exchange of bamboocraft technology among ASEAN member nations and Japan.
3. The training will cover thirty-two (32) days, tentatively scheduled from 26 January 1987 to 26 February 1987.
4. A total of eighteen (18) participants will attend the course. Two representatives from Brunei, Indonesia, Malaysia and Thailand will be accepted, for a total of eight from ASEAN member countries. The Philippine Government will send ten (10) participants to the course which will come from the country's different Regional Cottage Industry Technology Centers.
5. The following measures are to be undertaken by the Philippine Human Resources Development Center (PHRDC) and the National Cottage Industry Development Authority (NACIDA):
 - 5.1 The National Cottage Industry Development Authority (NACIDA) as the lead agency for PHRDC Program IV is responsible for the implementation of the training program.
 - 5.4 The Philippine Human Resources Development Center (PHRDC) as the Secretariat and Program I are responsible for the following:
 - 5.4.1 Provision of support services in terms of software materials development both in print and audio-visual media.
 - 5.4.2 Evaluation and monitoring of course implementation.
 - 5.4.3 Link with government concerned agencies both from the country and ASEAN-member nations to facilitate the invitation, selection and notification of representatives from participating countries.
 - 5.4.4 Undertake necessary program preparation activities.
6. Implementation of the ASEAN Regional Training Programme is a direct responsibility of the Philippine Human Resources Development Center (PHRDC), however, due to some budgetary constraints, PHRDC would like to seek the assistance of the Government of Japan in the successful implementation of the training program which is beneficial to both the Philippines and ASEAN.



ASEAN REGIONAL TRAINING PROGRAMME
IN THE FIELD OF BAMBOOCRAFT



A TRAINING COURSE ON
BAMBOOCRAFT TECHNOLOGY

26 January 1987 to 27 February 1987
National Cottage Industry Development Authority
Cottage Industry Technology Center
Marikina, Metro Manila, Philippines

GENERAL INFORMATION

Sponsored by

THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF THE
PHILIPPINES WITH THE TECHNICAL COOPERATION
OF THE GOVERNMENT OF JAPAN

INFORMATION ON ASEAN REGIONAL TRAINING IN BAMBOOCRAFT

I. INTRODUCTION

The Philippine Human Resources Development Center Project is the Philippine component of the ASEAN Human Resources Development Program initiated and funded by the Government of Japan. PHRDC is one of five (5) similar human resources development centers being put up in five (5) ASEAN countries to realize its policy on regional peace thru technology cooperation and manpower exchanges in the ASEAN Region. Each of these human resources development center is responsible for acquiring skills and technologies from Japan that will upgrade the human resources needs for the nation's development.

The PHRDC Project will achieve this through its four (4) programs: Human Resources Management, Seafarming Research and Development, Construction Manpower Training and Cottage and Light Industries Manpower Training which are being implemented with Japanese technical assistance including grant aid and a five-year technical cooperation for technology transfer in the said program areas.

The Philippine Government mandated the National Cottage Industry Development Authority (NACIDA) with the corporate mission to develop and promote cottage industries to its full potential. One aspect is the development and establishment of cottage industries training centers which will engage in the training of teachers and technicians in various areas of craft specialization.

This program is being implemented at each Cottage Industry Technology Center (CITC) in Metro Manila and the three Regional

Cottage Industry Technology Center (RCITC) in the regions.

CITC has adequate training facilities for bamboocraft, rattanraft, woodworking, ceramics, metalworking and loomweaving.

The Regional Training on Bamboocraft will be conducted by the Philippine government thru PHRDC with a view to contribute to upgrading ASEAN member countries techniques in this field and likewise to promote friendly relation between them as well as with Japan.

Arrangements for conducting the course are administered by PHRDC-NACIDA in collaboration with related organizations.

II. PURPOSE

The purpose of this course is to provide ASEAN participants engaged in bamboocraft work with the necessary knowledge and techniques ranging from the study and selection of raw materials to the improved application of technology for bamboo products. The course will also become a venue for exchange of bamboocraft technology among ASEAN member nations and Japan.

III. PROGRAMME

The programme of the course is given in Appendix I.

IV. QUALIFICATION OF APPLICANTS

To be eligible for admission, the applicants should:

1. be nominated by their government in accordance with the procedures for application;
2. be at least a vocational graduate (two-year college) or its equivalent;

3. be an entrepreneur, teacher, or worker in supervisory position engaged in bamboocraft with at least three years of relevant experience;
4. be between twenty five (25) and forty (40) years of age;
5. have a sufficient command of spoken and written English;
6. be in good health, both physically and mentally to undergo training. Pregnancy is regarded as a disqualifying condition for participation in the training. Applicant must present a Medical Certificate.

V. DURATION

26 January 1987 to February 1987

VI. LANGUAGE

The course will be conducted in English.

VII. FACILITIES AND INSTITUTIONS

The Center is located at a sprawling 4.6 hectares complex where six industrial workshops, dormitory, administration building, electrical sub-station, roads and perimeter walls were constructed.

The bamboocraft structure has floor area of 600 sq.m. that houses bamboo equipment for processing, preservation and finishing. Product display, offices and lecture rooms are also included. The Center is located at:

NACIDA-Cottage Industries Technology Center
No. 20 Russet Street, SSS Village
Marikina, Metro Manila, Philippines
Tel. No. 947-6375, 947-8252

VIII. PROCEDURE AND APPLICATION

1. The government desiring to nominate applicants for the course should fill in and forward five (5) copies of the Nomination Forms for each applicant to the Philippine Government through the Embassy of the Philippines not later than October 10, 1986.
2. Two trainees from Brunei, Indonesia, Malaysia and Thailand including the Philippines will be accepted. Nominating countries are requested to submit three candidates in order of their priority for screening purposes.
3. The Philippine Government will inform the applying government whether or not the nominee is acceptable to the course by December 10, 1986.

IX. ALLOWANCES AND EXPENSES

JICA will shoulder the following expenses:

- a. Economy-class roundtrip air-ticket between the international airport designated by JICA and the Manila International Airport (for non-Filipino participants).
- b. Domestic travel costs during the observation tours.
- c. Living allowance in pesos at the rate of US\$50.00 per diem covering accommodation charge, food and daily expenses, which shall be given on the first day of the course.
- d. Cost of insurance shall be borne by the participants or the nominating government. If in case, participants opted for a group insurance at their own expense, PHRDC shall make the necessary arrangements.

The living allowance paid by JICA is sufficient only to cover normal living expenses of the participant. No allowances of any kind will be paid for their accompanying dependents.

X. REQUIREMENTS

Participants from each country are required to prepare a country report on the Bamboocraft Industry in their own country, which will be presented during the workshop sessions. Suggested outline of the content of the country report may be found in Appendix 11. The country report must be about 5,000 words or a maximum of ten (10) pages long. Manuscripts, type-written and double spaced, must also be submitted. Participants are requested to carry with them reference materials such as color slides, teaching aids, curriculum including raw materials and if possible sample products. They are given time to explain the bamboocraft production activities and facilities of their organizations.

XI. ACCOMODATION

The trainees will be billeted at the UP-Asian Institute of Tourism for the entire duration of the course.

UP-ASIAN INSTITUTE OF TOURISM
Don Mariano Marcos Avenue
Diliman, Quezon City, Philippines
Tel. No. 96-90-71 to 78

There will be regular bus service for participants to and from their hotel.

XII. CERTIFICATE

Participants who have successfully completed the course will be awarded a Certificate of Completion by PHRDC.

XIII. OTHER INFORMATION

1. Participants are required to arrive in the Philippines on the date designated by the Philippine Government after

confirmation of acceptance. The date will be confirmed by the air-ticket sent to the participants.

2. On arrival at Manila International Airport, participants are requested to follow the undermentioned arrival procedures.

a) When quarantine immigration and customs clearance procedures have been completed, the participants should go to the Arrival Area. A representative from PHRDC will be waiting at this point to take them directly to the UP-AIT where reservations have been made for them.

b) Travel time from MIA to UP-AIT takes approximately 90 minutes.

Necessary care of the participants, thereafter will be taken by PHRDC-NACIDA throughout the duration of the course.

3. Participants are required to strictly observe the course schedule.

4. In order to carry out the course in a group, participants are strongly requested not to bring any member of their family.

5. For administrative uses participants are requested to bring five (5) copies of their photograph (passport size).

6. Participants are requested to follow the return trip schedule designated by PHRDC.

7. The Philippines has a tropical climate with relatively high humidity, mild temperature, abundant rainfall and gentle winds. There are three pronounced seasons: wet or rainy season from June to October, cool dry season from November to February and hot dry season from March to May.

Temperature ranges from 21 o C to 32 o C, with a 27 o C average. The coolest month is January (average 25.5 o C); the warmest, May (average 28 o C). Both temperature and humidity attain maximum levels in April and May. The weather pattern during the rainy season often consists of heavy rain followed by extended dry periods.

Light, casual clothes are recommended for travelling in the Philippines, and an umbrella and a raincoat are advisable if your visit happens to coincide with the rainy season. For visits to the mountain region, where temperature is usually 10 o C cooler than the lowlands, it is advisable to bring jackets and sweaters. For example, Baguio City, nestled 1,524 meters up in the Cordillera mountains in northern Luzon, has an average temperature of 18 o C.

10. Further information concerning the course is available at the following address:

Philippine Human Resources Development Center
PHRDC Bldg., UL Complex, Meralco Avenue
Pasig, Metro Manila
Philippines
Tel. No. 673-7639, 673-7638, 673-7644

CURRICULUM DESIGN

<u>SUBJECT</u>	<u>DAYS</u>	<u>HOURS</u>	<u>METHODOLOGY</u>	<u>DESCRIPTION</u>
1. Opening Ceremony	1	7	Program	Briefing of the Participants Overview of the PHRDC Program General Orientation
2. Overview of the Bamboo-craft Industry	1	7	Lecture	Association of Bamboo to man, their daily life during the primitive days and up to the present era. Status of Bamboo-craft industry in the Philippines
		1		Country Report presentation 4-5 p.m.
3. Hand tools, machines gadgets and other labor saving devices	1	7	Lecture and demonstration with audio-visual aids	Various hand tools used in bamboo-craft manufacturing. Importance of Jigs, gadgets and other labor saving devices.
		1		Country Report presentation 4-5 p.m.
4. Treatment of Materials Preservation	1	7	Lecture and demonstration	Importance of materials treatment in relation to bamboo-craft manufacturing. Various methods of treatment and preservation. Seasoning and proper storage practices.
		1		Country Report presentation 4-5 p.m.
5. Materials processing for Various items	5	35	Lecture/ demonstration	Proper processing method for basketry Proper processing method for lamination Proper processing method for flattening Bamboo furniture Joints

<u>SUBJECT</u>	<u>DAYS</u>	<u>HOURS</u>	<u>METHODOLOGY</u>	<u>DESCRIPTION</u>
		1		Country Report presentation 4-5 p.m.
6. Basket Formation and rim binding	5	35	Practicum	Actual weaving of bamboo trays, plate and flower baskets together with rim binding
7. Bamboo Furniture Construction	3	21	Practicum	Actual construction of arm chairs based on CIRC technology.
8. Finishing	1	7	Lecture/ demonstration	Surface preparation of finishing material by brush. Application of finishing material by spray. different kinds of finishing materials, coloring and/or staining. Bleaching and dyeing.
9. Designs and Furniture Standards	1	7	Lecture	To be lectured by a resource person from the private sector or from the Design Center Philippines.
10. Field Trip	3	21	Guided Tour	Factory visit to various plants in Luzon.
11. Closing Ceremony	1	7	Program	Evaluation Graduation
	-----	-----		
	23 days	161 hours		

COUNTRY REPORT ON BAMBOOCRAFT INDUSTRY

Name :
Country :

INDUSTRY PROFILE

(number of bamboocraft registered firms, employment in industry and share in country's total workforce, total exports in dollars, share of bamboocraft in export market)

STATE OF TECHNOLOGY

(Number of small-scale firms, number of semi-mechanized or fully mechanized firms, value of bamboocraft machine imports in dollars, number of foreign-assisted projects-nature and scope)

PROBLEMS FACED BY INDUSTRY

(Specific areas of industry that need attention)

ORGANIZATION

(Brief description of government concerned agency, private association of bamboocraft firms, linkages between public and private sector, specific activities/programs being undertaken by your own organization)

POLICY IMPLISITS

(Direction, legislation and laws to regulate and stimulate bamboo industry)

TARGETS

(Government programs to actualize policies as well as specific programs being initiated by your own organization/institution)

PLANS AND RECOMMENDATIONS

(Individuals view on how problems besetting the industry can be resolved or alleviated as well as specifying policy directions that their respective government can undertake).

PROJECT TITLE : REGIONAL TRAINING ON BAMBOOCRAFT

REPORT UPDATE : As of 18 September 1986

1. BUDGET REQUIREMENTS - SOURCES AND ALLOCATION

ITEM	TOTAL	JICA CONTRIBUTION	NACIDA CONTRIBUTION
1. Plane Ticket	P 112,320	P 97,320	P 15,000
2. Subsistence	576,000	576,000	0
3. Clothing	10,000	10,000	0
4. Teaching Materials (See Annex-Details)	14,400	14,400	0
5. Raw Materials & Stationary	46,300	46,300	0
6. Fieldtrip Transportation Allowance	46,015	39,952	6,063
7. Resource Persons	14,200	4,200	10,000
8. Typist's Fee	4,000	4,000	0
9. Transportation-Arrival/Departure/Others	23,500	23,500	0
10. Opening/Closing Ceremonies	5,000	0	5,000
11. Printing-Gen. Info./Reports/Certificate	0	0	0
12. Electrical and Water Consumption	10,500	0	10,500
13. Depreciation of Equipment	2,100	0	2,100
14. Stamps/Mailing	0	0	0
15. Insurance Premium	0	0	0
TOTAL	P 864,415	815,752	48,663

Note: Number of Trainees are eighteen (18), i.e., ten (10) for Philippines, two (2) for Thailand, Malaysia, Indonesia and Brunei. The budget is pending approval by JICA Headquarters.

X (See Annex for Details of Budget Requirements)

11. SCHEDULE

Invitation of Participating Countries - finished by October (First Week)
 Selection of Candidates for Training - finished by November (Third Week)
 Notification of Trainee Acceptance - finished by December (Second Week)
 Beginning of Training - 26 January 1987
 Termination of Training - 26 February 1987

III. SOFTWARE MATERIALS DEVELOPMENT						
TITLE	DESCRIPTION / PRIORITY LEVEL	NO. OF COPIES	PAGES/ LENGTH	MATERIALS/ MEDIUM	TOTAL COSTS	STATUS
1. NACIDA Briefer	VTR on Program IV w/ voice & music (A)	1	8-10 min	U-matic/Beta	P 6,250	Script for OK
2. Bamboo Species	VTR as Training Aid w/ voice & music (A)	1	12-15 min	U-matic/Beta	6,730	Outline OK/Script Tracking
3. Bamboo Basketry & Processing	VTR as Training Aid w/ voice & music (B)	1 each	30-45 min	U-matic/Beta	8,820	
4. Bamboo Design and Finishing	Documentation of lecture for future dev. into VTR w/ voice/music (B)	1	30-45 min each topic	U-matic Beta	1,150	For Approval
5. Documentation	Shooting footages of training events (A)	1	20 hours	U-matic	No cost	
6. Hand-outs	Various Bamboo Species Utilization of Handtools and Equipment	50	5 pages	Print-mimeo		Preparing Lay-out of all Hand-outs
	Bamboo Bleaching	50	7 pages	Print-mimeo		
	Bamboo chips Lamination for flat surface	50	5 pages	Print-mimeo		Evaluat'n of first draft
	Bamboo Knock-down furniture constr'n	50	5 pages	Print-mimeo		
	Bamboo boring Techn'q	50	5 pages	Print-mimeo		
	Bamboo dyeing	50	5 pages	Print-mimeo		
	Processing of flat strips for Basket	50	5 pages	Print-mimeo		
	Bamboo Flattening	50	5 pages	Print-mimeo		
	Processing of round bamboo spokes	50	5 pages	Print-mimeo		
	Dyeing of Bamboos	50	5 pages	Print-mimeo		
	Preparation of miter joints for bamboo	50	5 pages	Print-mimeo		
	How to make a pineapple flower vase	50	5 pages	Print-mimeo		
	Upholstery Work-Modern and Traditional	50	25 pages	Print-mimeo		
	Bamboo Resin-oil extraction	50	15 pages	Print-mimeo	3,465	
(All items is Priority Level A)						
7. Bamboocraft Manual (Revised)	Illustrated manual on bamboo (A)	50	32 pages	Offset	4,000	
8. General Info. Booklet	Information manual on bamboocraft course (A)	50	28 pages	Print-mimeo	1,000	(FP) For Printing
9. Administration Forms	Forms to be administered during training (A)	30	43 pages	Print-mimeo	927	Nominat'n Evl'n-FP
10. Plastic with binder & silkscreen	Insertion of hand-outs two colors (A)	50			2,750	
					SUB-TOTAL P	35,798
11. Miscellaneous Items						
a. T-shirt (2 Colors)	Souvenir items for trainees	50		Cotton	2,500	
b. Tags for projects	ID for projects	50			300	
c. PHRDC pin	Souvenir items	50			2,500	
					SUB-TOTAL	5,300
					GRAND TOTAL P	41,898

SOFTWARE MATERIALS DEVELOPMENT

ITEMS	BUDGET	PRIORITY LEVEL
a. NACIDA Briefer	P 6,250	A
b. VTR-Bamboo Species	6,730	A
c. Documentation-Bamboo Basketry/Processing	8,820	B
d. Documentation-Design and Finishing	1,150	B
e. Documentation-Training Events	no cost	A
f. Hand-outs	3,465	A
g. Revised Bamboocraft Manual	4,000	A
h. General Information Booklet	1,006	A
i. Administrative Forms	927	A
j. Plastic Folder	2,750	A
k. Training Certificates/Plaques of Appreciation		
1. Training Certificates	300	A
2. Plaques of Appreciation	400	A

SUB-TOTAL		P 35,798
=====		
l. Miscellaneous Items		
1. PHRDC Pin	2,500	B
2. T-shirts	2,500	B
3. Project Tags	300	B

SUB-TOTAL		5,300
=====		
GRAND TOTAL		P 41,098

AFFIX
RECENT
PHOTO
(Passport Size)

ASEAN REGIONAL TRAINING
SPONSORED BY THE GOVERNMENT OF THE PHILIPPINES
UNDER THE TECHNICAL COOPERATION PROJECT WITH THE GOVERNMENT OF JAPAN

NOMINATION FORM

By the Government of _____
(name of nominating country)

for a course of training in _____

PART I (to be completed by nominee) PLEASE PRINT OR TYPE

I _____ of
(use block letters, surname last)

_____ certify that the statement made by me in Part II of
this form are true, complete and correct to the best of my belief.

If accepted for a Training Award, I am willing to:

- a. Carry out such instructions and abide by such conditions as maybe stipulated by both the nominating Government and the host Government in respect of this course of training.
- b. Follow the course of study or training, and abide by the rules of the University or other institution or establishments with which I undertake to study or train.
- c. Refrain from engaging in political activities, or any form of employment for profit or gain.
- d. Submit any progress reports which may be prescribed.
- e. Return to my home country at the end of my course of study or training.
- f. Conduct echo seminars in my home country within ninety (90) days after training, and submit to PHRDC results thereof fifteen (15) days after each conduct.

I also fully understand that if granted a Training Award it maybe subsequently withdrawn if I fail to make adequate progress, or for other sufficient cause determined by the host Government.

(Signature of Nominee)

Date: _____

14. Employment Record. (Starting with your present job, list in backward sequence every employment you have had. Use a separate block for each job. If you need more space, attach additional pages of the same size.)

Job Title:	From Month/Year	To Month/Year
------------	--------------------	------------------

Name and Address of Employer:
Type of Organization:

DESCRIBE YOUR WORK

Job Title:	From Month/Year	To Month/Year
------------	--------------------	------------------

Name and Address of Employer:
Type of Organization:

DESCRIBE YOUR WORK

Job Title:	From Month/Year	To Month/Year
------------	--------------------	------------------

Name and Address of Employer:
Type of Organization:

DESCRIBE YOUR WORK

15. It would be useful if you would give a statement of not more than 500 words regarding your experience, requirements for training and plans after your training. This statement should be approved by your government.

PART III (to be completed by an authorized official of the nominating Government)

1. Observations of the nominating Government on:

a. the nominee's personal qualities, education and employment record and knowledge of English:

b. his/her general fitness to benefit fully from the course of training for which he/she is being nominated:

c. any special reasons for his/her selection:

d. description of the post he/she will be required to work after the satisfactory completion of this training:

2. Official Nomination

On behalf of the Government of _____
I certify that

a. I have examined the educational, professional or other certificates quoted by the nominee in Part II of this form and I am satisfied that they are authentic and relate to the nominee.

b. I have examined the medical certificate produced by the nominee which states that he is medically fit and free from any infectious disease and that having regard to his physical and mental history there is no reason to suppose that the nominee is other than fit to undertake the journey to _____ and to remain under training in that country.

c. The nominee has a knowledge of spoken and written English sufficient to enable him to follow the course of training.

d. That the class of sea travel appropriate to the applicant's status is tourist/first class.

I nominate him accordingly on behalf of the Government of _____

Signed: _____

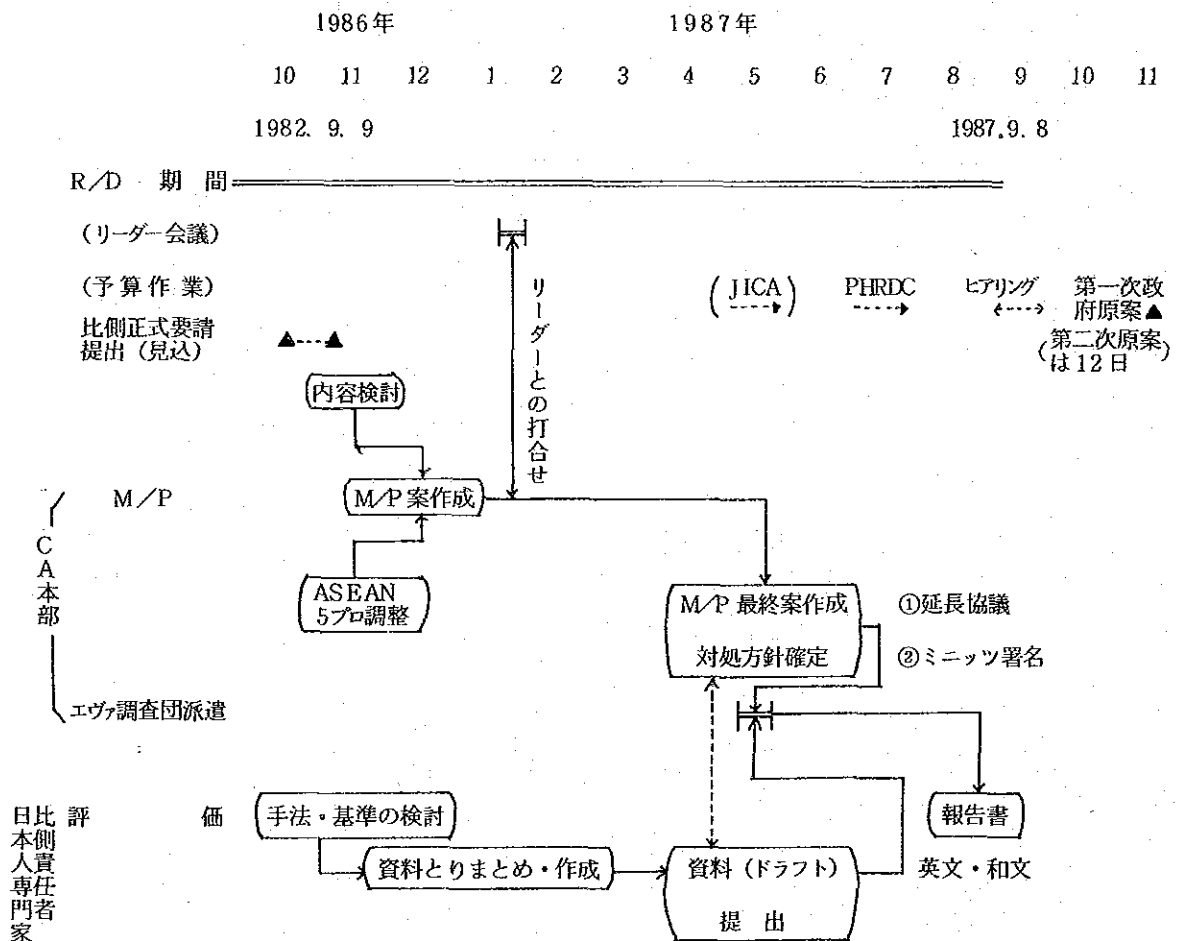
Rank or Title: _____

Date: _____

3. Correspondence: Please indicate person and address to which any correspondence regarding this form can be addressed. The telegraphic address should also be given.

6. 今後の作業スケジュール案

今後、わが方で検討或は準備すべき事項は、①10月下旬頃提出予定の比側延長要請内容の検討、②延長部分に対する協力の枠組の検討とM/P (Master Plan)案の作成 ③比側との延長協議 ④延長協力内容と連動するプロジェクトの評価の実施に関する事柄であり、その作業スケジュールを一例として図式すれば、下記のフローとなる。フローの中で、特筆すべき事項は、来年度派遣を予定しているエヴァリュエーション調査団が、協力の延長協議を行い、その協力内容等につき比側と合意に達すれば、ミニッツに署名し協力を継続する方式を提案していることである。これは、比側の正式延長要請が、遅くとも11月上旬までに出されれば、他ASEAN 人造りプロジェクトの延長に関する共通問題整理、横並びから来る微調整など必要とされる対応の検討が可能である事、又、評価の実施と一体にして延長内容を協議する合理性から提言するものである。



7. 合同委員会の協議事項

7. 合同委員会の協議事項ミニッツ

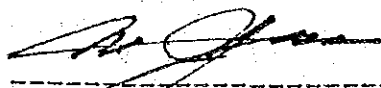
MINUTES OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE CONSULTATION SURVEY MISSION TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR THE PHILIPPINE HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT CENTER PROJECT

The Japanese Consultation Survey Mission Team (hereinafter referred to as "The Mission") by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Hidetoshi Yaoi met with the Philippine Authorities concerned from the Philippine Human Resources Development Center (hereinafter referred to as "the Project") from 8 September to 17 September 1986 for the purpose of discussing the details of implementation activities of the Project until 1987 and the possible extension of technical cooperation assistance.

During the Mission's stay in the Republic of the Philippines, the Mission had a series of discussions with the Philippine authorities concerned with respect to the progress, plans and the desirable measures to be taken by both Governments pertaining to the successful implementation of the above mentioned Project.

As a result of the discussions, the Mission and the Philippine Authorities concerned agreed, with reference to the Record of Discussions signed September 9, 1982, to recommend to their respective Governments the matters referred to in the documents attached hereto.

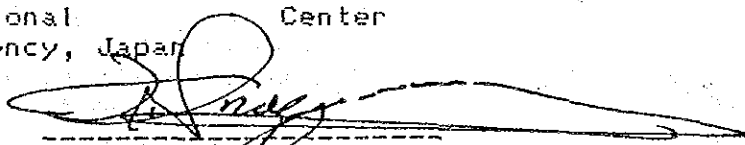
Manila, September 16, 1986



MR. HIDETOSHI YAOI
Leader
Consultation Survey
Mission Team
Japan International
Cooperation Agency, Japan



MR. JUVENAL CATAJOY, JR.
Officer-in-Charge
Philippine Human
Resources Development
Center



MR. TEIZO SUGIYAMA
Chief Advisor
Philippine Human Resources
Development Center.

Attached Document

COMMON ITEMS

1. Objectives of the Mission

The Government of Japan thru the Japan International Cooperation Agency (JICA) sent the Consultation Survey Mission Team for the following purpose:

- 1.1 To understand the present situation of Philippine Human Resources Development Center;
- 1.2 To check on the progress of each program;
- 1.3 To understand the Project plans within the period of Technical Cooperation (1982-1987);
- 1.4 To assess the readiness of the programs to offer ASEAN training;
- 1.5 To discuss the extension of the Project after the expiration of the Records of Discussions by 1987; and
- 1.6 To discuss plans for Project evaluation by 1987 prior to the expiration of the Records of Discussions

2. Organizational set-up

2.1 Assignment of counterpart personnel

On the issue of hiring additional counterpart personnel, the Philippine side, on a per program basis, agreed to undertake the following measures:

Program I - A librarian shall be hired who shall be responsible for the utilization of a library information system that will allow Philippine Human Resources Development Center to network and establish linkages with other libraries both local and ASEAN wide;

Program II - Additional personnel shall be hired within the fourth quarter numbering from four (4) to five (5) and more counterpart personnel shall be sent for training in Japan to strengthen the counterpart system;



Program III - It has been pointed out that Program III has sufficient personnel for Welding since there are already four (4) counterparts trained. What has to be strengthened is the field of Erection. Instead of the proposed seven (7) counterpart personnel by the Japanese side only five (5) personnel shall be hired; as follows:

- 2 Erection
- 1 Rebar
- 1 Pipefitting
- 1 Heavy Equipment Maintenance

2.2 Budget

Over the past years, the Philippine Human Resources Development Center and its programs have suffered a serious cutback in budget. To some extent this has affected the implementation of planned activities.

2.2.1 Since administration of the Project is a direct responsibility of the Philippine government, Program I and Program II authorities propose to source supplementary budget aside from the Foreign Assisted Special Fund (FASF) allocation thru the following scheme:

1. Request direct allocation from the Ministry of Human Settlements
2. Engage in revenue generation activities
3. Arrange for exchange of services with other agencies

In case of Program III and Program IV, both rely primarily on Foreign Assisted Special Fund (FASF) allocation.

2.2.2 The Japanese side agreed with the above proposal of the Philippine authorities provided that income generating and services exchange activities would not interfere with the original mandate of the Philippine Human Resources Development Center.

2.2.3 If there is a need for services of the experts, the Japanese side is most willing to provide assistance.

2.3 Organization

The issue on reorganization is an item that only the President of the Philippines or her duly authorized representative has the authority to decide.

3. ASEAN Regional Training Program (ARTP)

The Philippine side proposed the following:

3.1 That the ASEAN Regional Training Program be implemented by the programs as follows:

1986 - Program IV
1987 - Program I
1988 - Program III
1989 - Program II

3.2 That the ASEAN Regional Training Program should not only be limited to one (1) regional training but possible two (2) trainings in one year considering the inter-agency characteristic of the Project.

The Japanese side explained that prioritization of programs will have to be settled by Philippine Human Resources Development Center.

Implementation of Program I ASEAN Regional Training Program is tentatively scheduled on July or August 1987 assuming budget is released by May 1987.

However, the Japanese side pointed out that budget allocation for ASEAN Regional Training Program will only be settled by January 1987 to be decided by Japan's Ministry of Finance and that outputs of Program IV training will have to be evaluated.

4. Extension of Technical Cooperation

The Japanese side expressed the possibility of extending the Technical Cooperation assistance for approximately two (2) years.

The content and objective of extension is proposed as:

1. Program I, Program IV - follow-up cooperation
2. Program II, Program III - identify field where technology transfer has to be extended

Follow - up cooperation includes dispatch of experts, sending of trainees and provision of equipment but on a limited scale.

In accordance with this possibility, the Philippine side expressed its intention to submit a plan for approximately two (2) years by October 1986.

This plan will be based on the five year working plan for 1988-1992 as discussed by both panels.

5. Evaluation

Both Philippine side and Japanese side agreed that prior to the expiration of the Records of Discussions, Project Evaluation shall be conducted by both sides using a one (1) system approach.

A PHRDC committee shall be set up to counterpart the Japanese evaluation team.

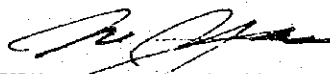
The standard evaluation scheme will be agreed upon by both sides.



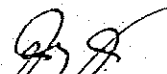
MINUTES OF DISCUSSIONS (Program I)

II. Items Per Program

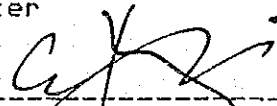
The present Minutes of Discussions for the detailed progress, plans, strategies of the Technical Cooperation for Program I has been jointly discussed and formulated by the Japanese Consultation Survey Team and the Philippine authorities concerned with the Philippine Human Resources Development Center Project and that schedule is subject to change when necessity arises in the course of implementation of the Project.




HIDETOSHI YAOKI
Team Leader
JICA Consultation
Survey Mission Team



JUVENAL H. CATAJOY, JR.
Officer-in-Charge
Philippine Human
Resources Development
Center



EDGARDO S. DAJAO
Managing Director
ICSD-Program I



HECTOR Z. LOPEZ
Officer-in-Charge
MMD-Program I

ITEMS DISCUSSED FOR PROGRAM I

1. PROGRAM ACCOMPLISHMENTS

The Mission expressed satisfaction in the accomplishments and level of technology transfer in both Computer and Multi-Media. For listing of detailed accomplishments, please refer to the PHRDC Report for the JICA Consultation Mission.

2. UNACCOMPLISHED FIELDS

None reported.

3. PROBLEMS AND STRATEGIES

The JICA Mission pointed out the need to maximize the use of the following:

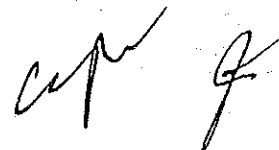
3.1 Language Laboratory

3.1.1 The Filipino counterpart explained to the Mission the reasons for non-maximization of the Language Laboratory, as follows:

- Non-accessibility of the Laboratory to personnel of other programs due to distant program locations.
- Lack of competent teacher-trainers in the field of Japanese language training.
- Utilization of the Language Laboratory confined to orientation seminars for trainees to Japan.

3.1.2 To answer the aforementioned problems, the following strategies are to be adopted by program management:

- Offer the use of the Language Laboratory to other institutions.
- Undertake a distance study course in Japanese language at the other Program sites. Language learning materials shall be developed and distributed to all Programs. Program personnel can independently conduct language courses with the help of the Japanese experts.



3.2 Computer Facilities

In response to the problem of under-utilized mainframe computer capacity, Program I-Information and Computer Services Division intends to share information with other databanking institutions engaged in livelihood development while reserving capacity for use in support of other Programs.

3.3 Librarian

The Mission recommends the immediate hiring of a full-time librarian to efficiently and effectively manage the Resource Library. Program management has already requested the detailing of a qualified staff from the Ministry of Human Settlements to PHRDC immediately.

4. TECHNICAL COOPERATION PLAN FOR 1986 TO 1987

Program I Multi-Media Division is awaiting the arrival of the requested two (2) short term experts for 1986 in:

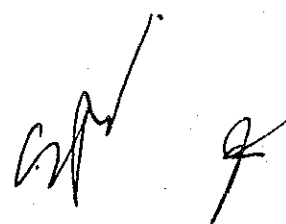
- Educational Television Production
- Materials Development Expert

The Mission requests further discussion with the Chief Advisor on Filipino counterpart training in the field of computer technology.

On the 1987 request for equipment, Mission suggests further consultation with PHRDC Japanese experts to come up with a revised list.

An expert in the field of Educational Television is being requested by Multi-Media, however, the Japanese side pointed out that sending of an expert in this field will depend upon the result of the outputs of the two (2) experts requested in 1986.

As for the request for counterpart training, the Mission suggested that the Philippine side, discuss the matter further with the Chief Advisor.



MINUTES OF DISCUSSIONS (Program II)

II. Items Per Program

The present Minutes of Discussions for the detailed progress, plans, strategies of the Technical Cooperation for Program II has been jointly discussed and formulated by the Japanese Consultation Survey Team and the Philippines authorities concerned with the Philippine Human Resources Development Center Project and that schedule is subject to change when necessity arises in the course of implementation of the Project.

K. Nogami

MR. KAZUHIKO NOGAMI
Member
JICA Consultation Survey
Mission Team

Bernardo M. Palad

MR. BERNARDO M. PALAD
Program Manager
Program II
Seafarming Research
and Development
Center

ITEMS DISCUSSED FOR PROGRAM II

1. PROGRAM ACCOMPLISHMENTS AND UNACCOMPLISHED FIELDS

Both parties agreed that Program II is now moving smoothly, with good progress made in the area of artificial depuration. It was acknowledged, however, that much work remains to be done in the fields of environmental studies, natural depuration, seed hardening, and other specific oyster technologies. Appendix I shows the detailed accomplishments of each division.

2. PROBLEMS AND STRATEGIES

2.1 Technical And Engineering Design

A proposal on the redesigning of the seawater intake system was discussed by the Filipino counterpart with the Japanese Mission. Details of the matter will be discussed with the Chief Advisor, so the Philippine side can be properly advised on what measures to take.

2.2 Counterpart Personnel

The Philippine side acknowledged the Japanese concern about staff shortage, and committed to hire five (5) additional technical staff starting October 1986. It was also stated that arrangements are now being made with Bureau of Fisheries and Aquatic Resources for an additional two to five (2 - 5) personnel to work with Program II.

2.3 Access Road

The Philippines acknowledged the difficulties caused by the non completion of the primary access road to the site and committed to make the representations necessary to facilitate completion thereof.

2.4 Dormitory Condition

The Philippine side reiterated that alleviation of the poor living conditions in the dormitory and the site in general is a top management concern and that steps have already been initiated in that direction.

3. TECHNICAL COOPERATION PLAN FOR 1986 - 1987

Both sides agreed on the contents of the Japanese Technical Cooperation for Program II :

3.1 Experts

Short-term experts requested on different fields for the cooperation will be three (3) for 1986 and three (3) for 1987.

The determination on the fields of the short-term experts to be sent to Program II from Japan and their schedule shall be discussed jointly by the Program Manager of Program II and the Japanese experts.

3.2 Counterpart Trainees

Counterpart trainees requested to Japan on different fields will be three (3) for 1986 and four (4) for 1987.

The determination on the fields of the counterpart trainees to be sent to Japan and their schedule will be discussed jointly by the Program Manager of Program II and the Japanese experts.

The Japanese panel acknowledged the request of Program II for an increase in training slots from three (3) to four (4) persons per year. However, they pointed out the language limitation and the difficulty for Japanese fisheries institutions to accept more trainees. They strongly recommended that a strict screening of nominees be conducted to arrive at trainees with a strong motivation to learn and to work for the Program. Sufficient training in the Japanese language was also suggested.

3.3 Equipment Request

The Philippine panel accepted the Japanese Team's suggestion that a consolidated Equipment Proposal shall be submitted by mid-October 1986, to include detailed costings and prioritization of items.

SEAFARMING RESEARCH AND DEVELOPMENT CENTER
Bonuan-Binloc, Davao City

ACCOMPLISHMENTS
1985 - 1986

APPENDIX I

ACTIVITY/DESCRIPTION	LOCATION	PERIOD	OUTPUT AND APPLICATION
MARICULTURE			
1. Oyster seed collection/production studies:			
a) Identification/establishment and monitoring of 4 seed collection sites	Davel, Gayaman, Salapinggo, San Pabian	Jan. 1985 to March 1986	Baseline data on spat density, distribution and seasonality. Comparable results on all sites, hence reduction to just two sites.
b) Continuation of monitoring	Davel & Gayaman	March 1986 to date	Same parameters for monitoring/forecasting purposes and objectives
c) Same studies on new, non-traditional areas	Binakayan, Cavite Buni, Pangasinan	May 1986 to date April 1985 to date	Bio/ecological data to assess suitability as oyster seed collection sites
2a. General site identification/monitoring surveys re seed production, hardening, and growing	Narvacan cove Aguada, Bolinao	Aug. 1985 to date Jan. 1985 to date	Bio/ecological data to determine site applicability to various functional parameters of industry
2b. Pilot Area testing for proto-type farms	Sual	March 1985 to date	In-depth application/developmental data and findings
3. Seed hardening trials	Sual Davel	Oct.-Nov. 1985 Mar.-Apr. 1985	Preliminary data on adaptability aspects of this technology

MAINCULTURE

ACTIVITY/DESCRIPTION	LOCATION	PERIOD	OUTPUT AND APPLICATION
Specific Research Methodologies adopted/undertaken: <ul style="list-style-type: none">- plankton analysis- spat monitoring- larvae sorting/sizing- sexual maturity/determination- molting studies- taxonomic studies- actual construction/maintenance/modification of various farm structure- survival/mortality/growth measurements- comparative studies (hardened vs. unhardened) (plot, raft, longline)		1985 - 1986	Raw data, on-the-job training, applicable technological conclusion. Inputs for further planning and R & D design.

2

SEAFARMING RESEARCH AND DEVELOPMENT CENTER
 Bonabon-Binaloc, Dagupan City

ACCOMPLISHMENTS
 1985 - 1986

ACTIVITY/DESCRIPTION	PERIOD	OUTPUT AND APPLICATION
<u>MICROBIOLOGY</u>		
1. Training of BPAR personnel on equipment use and salient aspects of microbiological analyses	January to Oct. 1985	Graduates with better working knowledge of same technologies
2. Oyster depuration studies: a) Artificial depuration b) Natural depuration	March-Dec. 1985 December 1985	Initial raw data, Camfilization with adopted technologies
3. Microbial analyses of water samples: a) Four traditional areas b) One non-traditional area	March-December 1985 August-December 1985	Baseline data for traditional model, assessment of new site
4. Frozen storage studies of depurated oysters	April-October 1985	Raw data/familization with new technology
5. Technical assistance to PCARRD/BPAR regarding oyster depuration	June-July 1985	Research cooperation and raw data
6. Oyster depuration tests and refinement: a) artificial depuration b) Natural depuration	January 1985 to date January to date	Raw data on various set-ups and conditions. Technical paper posts at Asian Fisheries Forum (May 1985) Raw data on newly identified sites. Preliminary conclusion

MICROBIOLOGY

ACTIVITY/DESCRIPTION	PERIOD	OUTPUT AND APPLICATION
7. Oyster washing procedures	Jan. 1986 to date	Raw data/Familiarization with methods and refinement of tentative conclusions
8. Microbial analyses of water samples: a) grow-out sites b) depuration sites	January 1986 to date	Baseline and monitoring data for assessment and forecasting objectives and purposes. Preliminary findings
9. Transport studies on depurated oysters	April to May 1985	Determination of study requirements, initial raw data
10. Oyster relaying studies	February-June 1986	Raw data with various preliminary findings

SEAFARMING RESEARCH AND DEVELOPMENT CENTER
 Bonuan-Binloc, Pagupan City

ACCOMPLISHMENTS
 1985 - 1986

ACTIVITY/DESCRIPTION	LOCATION	PERIOD	OUTPUT AND APPLICATION
PROCESSING:			
1. Smoked oyster studies		May 1985 to date	Refinement and standardization of procedures, control of parameters, microbiological tests, and sensory evaluation
2. Dried oyster studies		June 1985 to date	same as above
3. Fermented oyster studies		May 1985 to date	same as above
4. Oyster sauce studies		February 1985 to date	same as above
5. Comparative spoilage pattern studies re depurated/not depurated oysters		Aug. 1985 to December 1985	Data and preliminary findings on organoleptic, chemical, and microbiological aspects
6. Specific methodologies inclusive of actual batch production, packaging, quality control, and consumer tests		Jan. 1985 to date	Qualitative data, on the job training, assessment of technology adaptability

SEAFARMING RESEARCH AND DEVELOPMENT CENTER
 Bonuaa-Binloc, Daupuan City

ACCOMPLISHMENTS
 1985 - 1986

ACTIVITY/DESCRIPTION	LOCATION	PERIOD	OUTPUT AND APPLICATION
<u>ENVIRONMENTAL SURVEY</u>			
1. Meteorological measurements	SNDC site	Jan. 1985 to date (daily)	Baseline climatological data for correlation studies with primary hydrographical data and findings
2. Survey of 4 traditional Oyster grounds	Dawel, Cayaman, Salapingan, and San Pablan	Jan. 1985 to March 1986 (weekly)	Hydrographical data to establish base parameters of traditional, hence successful areas. Findings indicated identical conditions in all 4 sites; henceforth reduced to just 2 sites
3. Table and ocular survey of prospectives	Dawel and Cayaman	April 1985 to date (monthly) April 1986	Hydrographical data for monitoring purposes. Initial data base for forecasting objectives
4. Survey of 6 new sites	Bani, Aguada cove, Purcaisay, Hundred Islands, Binabalian, Bolinao	May 1986	Identification of 6 new sampling sites in non-traditional areas
5. Data analyses and report preparation		Jan. 1985 to date	Hydrobiological data to preliminarily assess suitability as oyster expansion/depletion sites Accomplishment reports, data base, and applicable conclusion for planning/R & D design

MINUTES OF DISCUSSIONS (Program III)

II. Items Per Program

The present Minutes of Discussions for the detailed progress, plans, strategies of the Technical Cooperation for Program III has been jointly discussed and formulated by the Japanese Consultation Survey Team and the Philippine authorities concerned with the Philippine Human Resources Development Center Project and that schedule is subject to change when necessity arises in the course of implementation of the Project.

Ryodichi

Takaoka

RYDICHI TAKAOKA
Member
JICA Consultation Survey
Mission Team

S. M. Dapul

SANTI M. DAPUL
Program Director
Program III
Construction Manpower
Development Center

ITEMS DISCUSSED FOR PROGRAM III

1. PROGRAM ACCOMPLISHMENTS AND UNACCOMPLISHED FIELDS

Please refer to the PHRDC Report for the JICA Consultation Mission.

2. PROBLEMS AND STRATEGIES

Program III has already constituted a Joint Management Committee composed of CMDC management, Filipino counterparts and Japanese experts to review existing and new course offerings. All courses shall be jointly endorsed by concerned parties before its implementation.

2.1 Pilot Training Program in Specialized Courses

Program III intends to launch a pilot training program in specialized construction and related courses not offered in any other institution in the country. Target participants are project managers, supervisors and foremen coming from both the public and private sectors. The plan addresses the problem of shortage of qualified middle level officials in the field of construction management. However with the additional emphasis to include supervisors/managers training to meet this situation, the Mission strongly recommends that substantive preparation be undertaken before new training courses are launched. It suggests that consultation meetings be held between Filipino counterparts and Japanese experts in the planning and conduct of the said pilot training program.

2.2 Welding Technology Course

There is low enrollment level for the Welding Technology course. Program III intends to pinpoint problem areas, whether it is training costs, shifting demand from trainer's training to skills upgrading, marketing strategy or the need to launch specialized courses in the said field.

2.3 Trade Testing and Certification

The Japanese side commented that offering trade testing and certification would be too premature at this point since it requires extensive preparation in software materials development and staff upgrading. The Philippine side explained that the CMDC will offer such project only by July 1987 in order to have enough time for study and preparation for effective and efficient conduct of testing and certification. The Japanese side agreed to work closely with the Philippine side in getting information/materials on construction trade standards.

RS

Ⓟ

2.4 Expansion of Dormitory Facilities

Program III seeks approval of Japanese grant aid assistance in expanding and upgrading the accommodation standards of its dormitory located at the Program site. The construction of quality dormitory facilities is deemed imperative for Program III to remain competitive with living standards available in the metropolis, as well as offer convenience and comfort to target domestic and foreign trainees. Mission gave assurances that it will convey the Filipino panel's request to Japanese Government Authorities concerned.

2.5 Center Management

The Mission pointed out the need to strengthen the management capabilities of Program III teacher-trainers. Program III acknowledges such limitations. In response to the problem, it intends to institute measures to improve management systems.

3. TECHNICAL COOPERATION PLAN FOR 1986 TO 1987

Program III requested for one (1) additional slot for counterpart training in 1986 and a total of seven (7) slots for counterpart training in 1987. Program III management explained the possibility of modifying the content of the counterpart training course in Japan to include supervisory/foremanship trainers training.

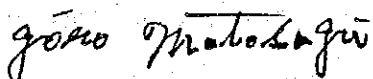
BJ

Ⓟ

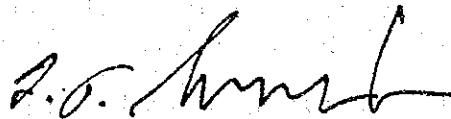
MINUTES OF DISCUSSIONS (Program IV)

II. Items Per Program

The present Minutes of Discussions for the detailed progress, plans, strategies of the Technical Cooperation for Program IV has been jointly discussed and formulated by the Japanese Consultation Survey Team and the Philippine authorities concerned with the Philippine Human Resources Development Center Project and that schedule is subject to change when necessity arises in the course of implementation of the Project.



GORO MOTOSUGI
Member
JICA Consultation Survey
Mission Team



ZAFRULLAH MASAHUD
Program Director
Program IV
Cottage Industry
Training Center

ITEMS DISCUSSED FOR PROGRAM IV

1. PROGRAM ACCOMPLISHMENTS

Japanese side requested a summary of Program IV accomplishments from 1985 to present. Filipino side presented a compiled report on Program IV activities, including a brief rundown of Program IV's short and long term courses, and a list of supplementary print and audio-visual materials produced by Program IV with the assistance of Program I. Technology transfer activities were reported to be proceeding smoothly.

2. UNACCOMPLISHED FIELDS

None reported.

3. PROBLEMS AND STRATEGIES

3.1 RCITC Davao

Filipino side confirmed that construction work at the Regional Cottage Industry Technology Center in Davao (RCITC XI) had slackened due to financial difficulties.

A contingency plan to facilitate construction work on RCITC XI must be drawn up to meet target dates. Filipino side gave assurances that funds to finance construction are available, and that release of the money from the Budget Ministry for transfer to CITC is expected within the year.

3.2 Distinguish NACIDA from PHRDC Training

Trainings supported by PHRDC through NACIDA must be stated in a report with copies sent to PHRDC and JICA so as to distinguish PHRDC-assisted activities from those solely conducted by NACIDA.

3.3 Reorganization

A merger of NACIDA with the Bureau of Small and Medium Industries (BSMI), to form a Bureau of Small Industries Development is being proposed to eliminate overlapping of functions. The merger would not affect CITC's implementation of the Records of Discussion.

CITC will in fact be strengthened under the new bureau, with CITC-Marikina designated as a National Training Center for cottage and light industry development in the country.

J.M.

J.F.

3.4 Prioritization

Proposed activities for the remaining months of 1986-87 must be prioritized to facilitate smooth implementation, with emphasis given to the proposed ASEAN Regional Training Programme (ARTP).

3.5 CITC Exhibition

To showcase the capabilities of both CITC and RCITC in crafts production, a prototype exhibit shall be held next year to display products developed by Filipino counterparts.

3.6 Mini-Library

The mini-library at NACIDA shall serve as a "showroom" for copies of developed supplementary instructional materials.

Japanese side mentioned the need for a systematic listing of all supplementary print and audio-visual materials for easy reference.

3.7 Monitoring

To determine the level of technology transfer as seen in the present activities of the training graduates, particularly those in regional areas, a monitoring system must be instituted.

4. TECHNICAL COOPERATION PLAN FOR 1986 TO 1987

Short term experts will be provided in the fields of product design, equipment maintenance and quality control.

The list of equipment and spare parts requirement in 1986 for Program IV has been finalized and submitted, including a detailed list with itemized costings. The list of equipment requirement in 1987 shall be finalized and submitted by mid-October 1986.

The extension of technical cooperation is strongly desired by Program IV Filipino side. The Mission expressed the possibility of providing "follow-up" cooperation for this Program for a period of two (2) to three (3) years in the following fields:

- Dispatch of short term experts
- Provision of additional equipment
- Offer of scholarship grants to train Filipino counterparts

J. M.

J. M.

JICA